

第九號 特許證 書式

第何號

特許證(改訂特許證)

本籍(及現住所)

何々(發明ノ名稱)

氏

名

本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ
何年間特許ヲ與フルモノ也

年月日

農商務大臣 氏

名 印

特許局長 氏

名 印

表

裏

何々(下付ノ事由)

年月日

特許局長 氏

名 印

第十號 特許ノ賣與、讓與、共有又ハ
書入ノ登録ヲ請求スルトキ

特許賣與(讓與、共有又
ハ書入)登録請求書

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一第何號特許證

一何々(發明ノ名稱)

一發明者氏名

右私(私共)所有特許ヲ別紙約定書之通賣與(讓與、共有又ハ書
入)候間登録相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日

氏

名 印

本籍(及現住所)

買受(讓受、共
有書入受)人氏

名 印

特許局長氏名殿

第十一號 書入中ノ特許ノ賣與讓與共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキ

特許賣與(讓與、共有又ハ書入)登録請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

- 一 第何號特許證
- 一 何々發明ノ名稱
- 一 發明者氏名

右私(私共)所有特許ハ何年何月何日附ノ約定書ニ依リ何某本籍ヲモ記ヘ書入致置候處今般別紙約定書之通賣與(讓與、共有又ハ書入)候間登録相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日

特許證主

氏

名 印

本籍(及現住所)

買受(讓受、共)

人氏

名 印

特許局長氏名殿

明細書文例 (備考)

一 明細書ハ美濃紙ニツ折コシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十二行二十五字詰ニ認ムヘシ

二 明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス

三 明細書ハ其發明ニ關スル學術又ハ事業ニ熟練ナル者ノ之ニ由リテ其發明ヲ實施シ得ル様詳細正確ニ認ムルヲ要ス

四 明細書ハ書損ナキ様認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縦線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

五 明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

(備考)

一 圖面ハ礮水引ノ純白ナル美濃紙ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八

- 分左三分右一寸五分ヲ餘シ豎曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ之ヲ認メ其面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス
- 二 圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ豎ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ豎横混合シテ用フヘカラス
- 三 圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス
- 四 發明ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス
- 五 圖面ハ寫真石版ノ原料ニ適スヘキ樣濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ畫キ着色スヘカラス
- 六 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル樣濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ
- 七 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ストキハ其部分タケ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ

- 八 截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ノ差ヒタル斜線ヲ用フヘシ
 - 九 圖面ノ凹凸ヲ明瞭ナラシムル爲メ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒ簡明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス
- 第一 機械ノ發明ヲ記
載シタル一例

明細書

肉類細切器

此發明ハ上下スル庖丁ト旋轉スル組ト相須テ作用スル肉類細切器ニ加ヘタル改良ニ係リ其目的トスル所三アリ、第一、組ヲ支撐スル表面ニ油ノ斷ニサル様ニシ其旋轉ヲ常ニ滑利ナラシムルコト、第二、二箇ノ庖丁ノ位置ヲ各別々ニ調節シ以テ其刃ト組ノ表面トノ關係ヲ適切ニナスコトヲ自在ナラシムルコト、第三、庖丁ヲ上下スル桿ノ摩擦ヲ減少スルコト是ナリ、別紙圖面ニ於テ右ノ目的ヲ達スヘキ機構ヲ示ス、其第一圖ハ

全器ノ垂直断面、第二圖ハ全器ノ中ヨリ組ト庖丁トヲ除キ去リテ上ヨリ之ヲ觀タル圖、第三圖ハ第二圖ニ示セル部分ヲ第一圖中(一二)線ニ就テ截斷シタル垂直断面、第四圖ハ上下スル丁字架ト之ニ裝附シタル庖丁トヲ細ニ示シタル斜面圖ナリ右諸圖ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス

臺ハ其脚ろろ、及ヒ臺ノ裏面ニ取リ着ケタル軸吊ハナリ以テ本器ノ構礎トス、軸吊ハニハ勢輪^{ハツシクル}ノ軸ニヲ通ス、此勢輪ノ轂ナリ曲柄串ハ運桿ヘナリ以テ丁字架トノ串ニ連ネ、丁字架トニハ桿チヲ取リ着ケ、此桿ノ上端ニハ丁字架ヲ取リ着ケ、丁字架ヲニハ下文ニ解明スル如ク自在ニ調節シ得ヘキ庖丁ぬぬヲ裝附シタリ

軸ニノ推引スル丁字架トニハ臺^{ハツシクル}ノ裏面ニ取リ着ケタル導桿^{レナリ}をニ適應スル減阻轉子^{レナリ}るヲ具フ、是レ此丁字架上下ノ際、摩擦抵阻ヲ極メテ少クセンカ爲メナリ

木造ノ組^{レナリ}ノ下面ニハ、臺^{ハツシクル}ノ上面ニ設ケタル環狀ノ溝^{レナリ}カニ適應シテ之ニ支撐セラルヘキ環狀ノ凸起^{レナリ}ヲ具フ、環溝^{レナリ}カノ深サハ一様ナラス一箇所以上(茲ニハ假ニ二箇所トス)ニ於テ

較^{レナリ}深キ窪^{レナリ}ヲ有リテ之ニ油ヲ貯フ、而シテ凸起^{レナリ}ハ此油ニ觸レテ旋轉スルヲ以テ凸起^{レナリ}ト溝^{レナリ}トノ間ニハ常ニ油ノ斷ユルコトナク甚タ滑利ナルコトヲ得ルナリ、桿^{レナリ}チハ中央ノ架レテ貫通シ之ニ制導セラル、該架ノ下端ハ臺^{ハツシクル}ニ取着ケ其上部ハ組^{レナリ}ノニ觸レスシテ組^{レナリ}ノ中央ナル孔ヲ貫キテ上方ニ突出シ蓋^{レナリ}ニ覆ハル、此蓋ハ組^{レナリ}ニ取着ケ其中央ノ孔ニ肉片ノ落ツルヲ防クモノナリ、

前ニモ掲ケ且第四圖ニ委シク示セル丁字架^{レナリ}リハ桿^{レナリ}チニ貫カレ其位置ハ桿^{レナリ}チニ從ヒ垂直ノ方向ニ於テ任意ニ之ヲ移動シ以テ適切^{レナリ}ニ之ヲ調節スルコトヲ得、而シテ其調節整頓^{レナリ}シタルトキハ止螺旋^{レナリ}ヲ以テ之ヲ緊柱^{レナリ}スヘシ、又桿^{レナリ}チノ上端ニハ牝螺旋^{レナリ}ヲ嵌スルタメニ螺絲^{レナリ}ヲ刻メリ、此牝螺旋^{レナリ}ハ丁字架ノ上ニ在リテ庖丁^{レナリ}カ組^{レナリ}上ノ肉^{レナリ}ニ突當リタルトキ丁字架^{レナリ}ノ之カ爲ニ激シテ濯^{レナリ}リ上ルヲ抑ヘ止ムルノ用ヲナスモノナリ、

庖丁^{レナリ}ぬぬハ右ノ丁字架^{レナリ}ニモ關係ナク又相互ニモ關係ナク各獨立^{レナリ}ニ其位置ヲ調節スルコトヲ得、故ニ何レノ庖丁^{レナリ}ノ刃^{レナリ}ヲモ常ニ組^{レナリ}ノ上面ト恰モ相合ハシムルヲ得ヘキナリ

上文ノ庖丁調節方ニ付テ予ハ第四圖ノ裝置ヲ用フルヲ以テ最
 良ノ法ト爲ス、即テ兩庖丁ノ上端ニ各二條ノ螺絲桿ねねヲ固
 着シ、此桿ヲ丁字架ノ耳をニ挿シコノ耳ヲ隔テ、其上下ニ
 二箇ノ牝螺旋ヲ嵌ムルニ在リ、斯裝置ニ依ルトキハ各牝螺旋
 ナ回轉シテ以テ極メテ精密ニ庖丁ヲ調節シ得ヘシ
 組ノ周邊ニ圓筒狀ノ版ヲ附着シテ槽むヲ形成セシメ以テ肉
 片ノ組外ニ落ツルヲ防シ、又組ノ下面ナル環狀ノ凸起ノ周
 圍ニハ小齒輪ヲニ齧合フヘキ齒輪ヲ刻ム、此小齒輪ヲハ軸に
 ヨリ適宜ノ聯動機ヲ經テ之ヲ運轉セシムヘシ、別紙圖面ニ示
 セル聯動機ノ若キハ此發明ノ一部分トシテ示シタルモノニア
 ラス
 軸にハ滑車ノニ調革ヲ掛ケテ以テ之ヲ旋轉セシムルモ可ナ
 リ、亦一端ニ把手クヲ具ヘ一端ニハ軸にニ設ケタル小齒輪ニ
 齧合フヘキ齒輪ヲ備ヘタル軸ヲ裝置シテ之ヲ旋轉ス
 ルモ可ナリ
 臺ノ一方ニ蝶鉸ヲニテ板けヲ据附ケ以テ細切シタル肉ヲ入
 ル、器物ヲ載スルノ用ニ供スルモ可ナリ、此板ヲ有用ノトキ

支柱シ不用ノトキ除クニ最モ便利ナルノ方ヲ第一圖ニ示セリ
 此發明以前ニ旋轉スル組ト上下スル庖丁ト相須テ作用スル肉
 切器アリタルコトハ予之ヲ知レリ、故ニ予ハ汎ク斯ノ如キ組
 合ヲ取リテ悉ク予ノ發明ナリトセス左ニ予ノ發明トシテ其特
 許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

- 一 肉類細切器中、環狀ノ凸起ヲ具フル旋轉組ト環溝カ并
 ニ之ト連續セル油窪ヲ設ケタル臺トノ組合
- 二 肉類細切器中、各獨立ニ自在ニ上下シテ調節シ得ヘキ庖丁
 ぬねヲ裝附シタル上下スル丁字架ト旋轉組トノ組合
- 三 本書ニ記シタル目的ヲ以テ、上端ニ二條ノ螺絲桿ねねヲ固
 着シタル庖丁ぬ
- 四 肉類細切器中庖丁ぬねヲ裝附シタル上下スル桿ちト、此桿
 ニ取着ケ且ツ減阻轉子なるヲ具フル丁字架とト、此轉子ニ
 適應スル導桿ををトノ組合

氏 名 印

氏 名 印

第一圖 第二圖 第三圖 第四圖

(此處ノ肉類細切器ノ圖畧ス)

第二物品ノ發明ヲ記
載シタル一例

明細書

旋轉齒刷

此發明ハ柄ノ頭部ノ四方ニ刷毛ヲ具ヘ柄ノ中心線ヲ軸トシテ
旋轉シ以テ齒ヲ磨クノ用ヲナス齒刷ニ係リ、其目的トスル所
ハ刷毛ヲシテ垂直ノ方向ニ即チ齒ノ長サノ方向ニ作用セシメ
以テ齒ノ表面ヲ掃除スルノ効用ヲ完全ナラシムルニ在リ

別紙圖面中、第一圖ハ此旋轉齒刷ノ全體ノ斜面圖、第二圖ハ
刷毛函ヲ開キタル圖、第三圖ハ柄ノ頭部、第四圖ハ推引サル、
鈕子ヲ示ス、此等諸圖ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノ
トス

柄ハ金屬、象牙、護謨、骨等ノ如キ隨意ノ材料ヲ以テ之ヲ造
リテ可ナリ、然レトモ骨ヲ用フルトキハ其價ヲシテ最モ廉ナ
ラシムルヲ得ヘシ、其形ハ圓筒狀トナスヲ可トス、其周圍ニハ
二三四回之ニ纏繞スル螺絲ノ狀ニ於テ溝よヲ穿ツ、柄ノ頭部ニ
ハ四方ニ刷毛ヲ列植シ、此刷毛ヲ植タル部分ノ各端ニ於テ約
ツ二分ヲ相距テ、環縁タレヲ設ケ、其間ヲ軸頸トス、柄ハ
溝よヲ穿チタル部分ニハ鈕子ヲ推引スルナリ此、鈕子ハ柄
ト同シ材料ニテ造ルヲ便利トス然レモ他ノ材料ヲ賣ルモ固ヨ
リ不可ナシ、其形狀ハ外周ニ於テハ四角其他隨意ノ形トナシ
内側ハ柄ハニ適應スル形トナシ且ツ溝よニ嵌ルヘキ舌ノヲ具
フ故ニ此鈕子ヲ前後ニ推引スルトキハ柄並ニ其頭部ニ植タル
刷毛ヲシテ旋轉動ヲナサシムルナリ
刷毛函ハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ト大概等シキ長サヲ有シ其

横断面ハU字状ニ其両端ニ扇形ノ側版にはナ具フ、但シ此側版ハ函ノ胴ト同一體ニ造ルヲ可トス、又兩側版ノ内一箇にニハ孔ねヲ穿テ以テ刷毛ヨリ滴瀉スル水ヲ放流スルニ供ス、又中央ニ半圓狀ノ凹處ヲ穿テ以テ軸頭ヲ受撐スル表面ヲ形成セシム、軸頭ヲ此凹處ニ置キタル後ハ蓋ヘテ閉テ刷毛ヲ函中ニ安定セシムルナリ

蓋ヘハ種々ニ之ヲ構造シ得ヘシ、別紙圖面ニ其最モ簡單ナル構造ヲ示ス、即チ微シク彎曲セル版ト側版ちりトヨリ成リ、側版ちりハ蓋ヘテ閉テタルトキ函ハ側版にはト相重ナル如クス、蓋ヘハ其一邊ニ於テ函ハ蝶絞シ他ノ一邊ニ於テ摘子ねヲ具フ、此摘子ハ蓋ヲ閉テタルトキ函ノ摘子ト相符合スル如クス、刷毛函及ヒ蓋ハ金屬若クハ護膜ヲ以テ之ヲ造ルヲ可トス

此齒刷ヲ使用スルニハ一手ヲ以テ摘子ぬるヲ摘ミ刷毛ヲ齒ニ接觸セシメ他ノ一手ヲ以テ鈕子ヲ前後ニ推引スルナリ、爾ル片ハ縱令ヒ鈕子ノ動ハ稍徐ナリトモ刷毛ハ迅速ニ旋轉スヘシ、故ニ刷毛ハ極メテ周密ニ齒ノ端邊ヲ掃除スルコトヲ得

ルナリ、蓋シ齒ヲ損スルコトナシテ之ヲ清掃スルノ最良方ハ唯リ齒ノ長サノ方向ニ於テ之ニ刷毛ヲ加フルニ在リトイフコトハ世ノ理學家カ疑ハサル事實ナリ

此發明ノ精神ヲ變スルコトナクシテ刷毛函ノ構造ニ多少ノ變更ヲ加ヘ若クハ爾他ノ部分ノ形狀及ヒ構造ヲ少シク變スルコトヲ得ヘキコト言テ須タス、故ニ予ハ此發明ノ區域ヲ上文ニ記述シタル特別ノ構造ノミニ限ルヲ欲セス、左ニ予カ發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

一 蝶絞ニテ蓋ヲ裝附シ以テ旋轉スル刷毛ヲ保持スルノ用ヲナスヘキ刷毛函ト、螺絲狀ノ溝ヲ穿テタル柄ト、此柄ノ溝ニ適合シ推引サレテ柄ヲ旋轉スヘキ舌ヲ具フル鈕子トヨリ成ル旋轉齒刷

二 旋轉齒刷中、摘子附キノ蓋ヲ蝶絞シタル摘子附キノ刷毛函ト、之ニ軸頭ヲ委スル旋轉スヘキ刷毛ト、此刷毛ヲ旋轉セシムル柄トノ組合

三 旋轉齒刷中、凹處ヲ具ヘ之ニ刷毛ノ軸頭ヲ入レ蓋ノ側版ノ凹處ト相須テ刷毛ノ軸架ヲ形成スヘキ側版ヲ有スル函

ト、螺絲ノ狀導子及ヒ此導子ニ適合シ推引サレテ旋轉動
 ナ生スヘキ鉗子ヲ具フル柄トノ組合
 四旋轉齒刷中、一面開放セル刷毛函ニ軸頸ヲ委スル刷毛ト、
 此刷毛ニ固着シテ同一體ヲ成シ且ツ表面ニ螺絲狀ノ溝ヲ
 穿テタル柄ト、此柄ノ溝ニ適合シテ刷毛ヲ操作スヘキ舌
 ナ具フル鉗子トノ組合

氏 名 印

氏 名 印

第一圖 第二圖 第三圖 第四圖

(此處ノ旋轉齒刷ノ圖畧ス)

第三工術ノ發明ヲ記
 載シタル一例

明細書

軟鐵及鋼鐵製造方

此發明ノ目的ハ熔解シタル粗鐵ヨリ燐ト硫黃トヲ除去スルニ
 在リ、其方法ハ鹽基性物即チ硅酸ヲ含有セサル物料ヲ内面ニ
 塗布シタル顛回爐ニ鐵ヲ投入シ、硅素ヲ奪除センカ爲メニ太
 氣ヲ吹き入レテ之ニ作用セシメ、從テ化生スル所ノ含硅熔滓
 ナ該爐ヨリ放排シ、然ル後燐ト硫黃トヲ奪除センカ爲メニ大氣
 ト螢石即チ弗化カルシウムトヲ爐中ノ鐵ニ加ヘテ之ニ作用セ
 シムルニ在リ

此發明ヲ施行スルニハ、先ツ熔鐵ヲ熔鐵爐ヨリ顛回爐ニ移注
 シ、顛回爐ノ底若シハ側部ヨリ吹き入ル大氣ヲ之ニ加ヘ、奪硅
 作用ノ全ク終ルニ至リテ大氣ノ吹入即チ衝風ヲ斷チ、次ニ顛
 回爐ヲ傾欹シテ其熔滓ヲ流放シ、次ニ又衝風ヲ吹き入レ且ツ
 顛回爐ヲ直立ノ地位ニ復セシメテ後直チニ螢石ヲ之ニ入ル、
 但シ其入レ方ハ之ヲ細粉トナシテ衝風ト共ニ熔鐵中ニ吹き入

ル、チ可トス亦熔滓ヲ去リタル後顛回爐ノ口部ヨリ其小塊ヲ
 投入スルモ可ナリ、斯クシテ入レタル螢石ハ熱ノ爲メニ分解
 シ弗素ト石灰トヲ化生シテ以テ硫黃ト燐トヲ蒸氣及ヒ熔滓ト
 ナシテ除去スル(硅素ノ殘留スルモノアルトキハ亦之ヲ去ル)
 カ故ニ爐中ノ鐵ハ奪灰作用完カラサルトキハ、化シテ鋼鐵ト
 ナリ、其作用完キトキハ軟鐵トナルナリ
 顛回爐ノ壁ノ内面ニ塗附スルニハ石灰若クハ苦土質石灰ヲ用
 フルチ良シトス、然レトモ亦他ノ適當ナル石灰質ノ塗被料ヲ
 用フルモ妨ナシ

上文ノ粗鐵ハ普通ノベッセマー法ニ於テ通常用フルモノ即チ
 百分中硅素二分、炭素三乃至四分ヲ含有シ且ツ之ニ若干ノ螢
 石ヲ加フルニアラサレハ良質ノ鋼鐵ヲ成ス能ハサル程ニ過量
 ノ燐ヲ含有スルモノニテ可ナリ

粗鐵中ニ多量ノ滿俺存スルトキハ其含有スル硅素ノ量或ハ
 較少カルヘシ(然レトモ較多量ノ硅素ヲ含有スルモ敢テ害
 ナシ)予ハ百分中三分乃至五分ノ滿俺ヲ含有スル粗鐵ヲ用フ
 ルチ良シトス爾ル時ハ衝風吹入ノ終リニ當リテ滿俺ヲ加フル

コトヲ要セス、然レトモ若シ粗鐵ニ滿俺ヲ含有セサルトキハ
 奪硅作用終リテ直チニ一分乃至一分半ノ鐵鐵ヲ投入スルチ可
 トス是レ予ハ奪灰作用ノ間ニ滿俺存在スルトキハ其鐵ノ質ヲ
 シテ良好ナラシムルノ效著大ナルコト之チ後ニ至リテ加フル
 ノ比ニアラサルコトヲ發見シタルニ由ル、然リト雖モ鐵ヲ精
 製スル間ニ滿俺ノ存スルト否トハ必スシモ鋼鐵ノ生成ニ須要
 ナリトセス何トナレハ衝風ヲ吹入ル、ノ際滿俺アリタルト否
 トニ關セズ衝風ヲ止ムルニ臨テ滿俺ヲ入ル、モ亦可ナレハナ
 リ

爐中ニ加フヘキ螢石ノ量ハ應ニ粗鐵中ニ含有スル硅素ト燐ト
 硫黃トノ目方ノ三乃至五倍タルヘシ
 石灰若クハ酸化鐵ヲ螢石ト混和シテ爐中ニ入ル、モ可ナリ、
 亦當初奪硅作用ヲ施ス前ニ石灰ヲ粗鐵ト共ニ爐ニ投入スルモ
 可ナリ、然レトモ斯ク石灰若クハ酸化鐵ヲ使用スルハ敢テ緊
 要ノ事ナリトス

螢石ヲ奪硅作用ノ前ニ用ヒスシテ之チ其後ニ用ブルノ利益タ
 ル所以ハ他ナシ、若シベッセマー法ノ始メニ當テ之チ用フルト

キハ大ニ熔鐵ヲ冷却シ從テ之ヲ流放シ難カラシメ且ツ尙ホ懸ニ多量ノ螢石ヲ要スルノ憂アルヲ以テナリ、奪硅作用後直チニ含硅熔滓ヲ除去スルノ利益タル所以ハ他ナシ、之ヲ去ルトキハ螢石ヲシテ之ヲ中和セシカ爲メニ耗費セシムルノ憂ナクレハナリ若シ否セスシテ之ヲ久シク爐中ニ留滞セシムルトキハ螢石ノ多量ハ無益ニ熔滓ト相化合スヘシ

ハツセマ一法ニ於テ鑄鐵ヨリ燐ヲ奪除センカ爲メニ螢石ト大氣トヲ使用スルコトハ予カ既ニ何年何月何日附チ以テ第何號特許ヲ得タル所ナルヲ以テ今汎ク斯ノ如キ方法ヲ取テ本發明ノ權利ヲ請求スル區域ト爲サス、畢竟本發明ハ右ノ方法ニ加ヘタル改良ニシテ其主眼トスル所ハ少量ノ螢石ヲ費シテ以テ鐵ヲ精製スルコトヲ得ルニ在リ

特許條例ニ依リ本發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
本書ニ詳記シタル軟鐵及鋼鐵製造方ニ加ヘタル改良、即チ適當ナル鹽基性物ヲ以テ内面ヲ塗被シタル類同爐内ニ於テ先ツ粗鐵ヨリ硅素ヲ奪除センカ爲メニ之ニ衝風ヲ加ヘ、次ニ生成シタル含硅熔滓ヲ流放シ、又次ニ鐵中ノ硫黃ト燐ト

ヲ奪除センカ爲メニ螢石若クハ之ニ齊シキ作用ヲナスヘキ鹽基性物ヲ加フルヨリ成ル方法
氏 名 印

第四 合成物ノ發明ヲ記載シタル一例

明細書

脫毛媒助劑

此發明ハ毛皮ヲ鞣化スルニ先チ豫メ其毛ト脂肪トヲ除去スルニ供用スヘキ合成劑ニ係ル

此合成劑ハ左記ノ資料ヲ左記ノ割合ニ合セテ成ル

- 清水 拾貳石五斗
- 生石灰 八斗
- 炭酸曹達 拾貳貫目
- 硝石 貳貫四百目
- 硫黃花 壹貫貳百目

以上ノ資料ヲ善ク攪拌シテ混和セシムルナリ

此合成劑ノ用方ハ先ツ毛皮ヲ水中ニ漬スコト、生皮ナレハ一日間、枯乾シタル皮ナレハ八日間ニシテ其毛皮ニ存スル鹽類

及ヒ汚物ヲ悉ク除去シ以テ之ヲ清淨ニシ次ニ之ヲ此合成劑ノ液中ニ漬スコト四十八時間ニシテ之ヲ取出シ、爾ル後通常ノ方ニ藉リテ其毛ヲ脫除スルニ在リ

此合成劑ヲ毛皮ニ施ストキハ忽チ其毛ヲシテ極メテ脫除シ易カラシメ且ツ皮中ニ存スル脂肪其外鞣化ヲ妨クヘキ有害ノ物質ハ悉ク之ヲ去リ而シテ其化シテ革ト成ルヘキ精良ノ物質ニ至テハ能ク之ヲ留存スルナリ

炭酸曹達ト水ト石灰ト硫黃トヨリ成ル合成劑ヲ上文ニ同シキ目的ニ供スルコト並ニ硝石ヲ脫毛劑ニ用フルコトハ世人ノ既ニ知ル所ナルハ予之ヲ知レリ然レトモ予ノ合成劑ノ資料ヲ悉ク用ヒ且ツ之ヲ混合スルニ前記ノ割合ヲ以テシタルハ予ノ未ダ知ラサル所ナリ

左ニ予カ發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

毛皮ノ毛ヲ脫除シ易カラシメ及ヒ該皮ヲシテ鞣化スルニ適切ナラシムルノ目的ニ供用スヘキ水ト生石灰ト炭酸曹達ト硝石ト硫黃花トヨリ前記ノ割合ニテ成ル合成劑

氏 名 印

○第三款 特許料登録料上納方

▲明治廿一年十二月閣令第二十三號
特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登録料及特許條例第三十條意匠條例第十八條商標條例第十七條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

○第四款 特許發明ノ明細書其他請求手續

▲明治廿二年一月農商務省告示第一號

特許條例意匠條例及商標條例ニ依リ特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 印刷書類拂下代價ハ明細書一部ニ付金貳錢五厘特許公報一部ニ付金拾五錢商標公報一部ニ付金貳錢五厘トス

第二條 書類ノ謄本手数料ハ十三行二十五字詰一枚ニ付金拾錢トス但字數一枚ニ滿サルモノハ一枚ヲ以テ算ス

第三條 圖面調製手数料ハ一枚ニ付金貳拾五錢以上金壹圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル所ニ依ル

○第三類 ○商法篇 ○特許料登録料上納方 ○特許發明ノ明細書其他請求手續

第四條 印刷書類ノ排下又ハ書類ヲ謄本ヲ請求スル者ハ請求書ヲ差出ス
ヘシ但印刷書類ノ郵送ヲ請フ者ハ一部ニ付金貳錢ノ郵便切手ヲ請求書
ニ添フヘシ

第五條 特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ
雛形見本又ハ粗圖ニ明細書ヲ添ヘテ請求書ト共ニ差出スヘシ但審査用
ノ爲メ既ニ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖並ニ明細書ヲ差出シタル者ハ請
求書ノミヲ差出スヘシ

第六條 意匠條例第二十五條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其意匠登
録證ノ番號及日附ヲ請求書ニ記載シテ差出スヘシ
第七條 代價及手数料ヲ徵收スルトキハ當省會計局ヨリ請求者ニ納額告
知書ヲ發送スヘシ

○第三章 意匠

○第一款 意匠條例

▲明治廿一年十二月勅令第八十五號

朕意匠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十五號

意匠條例

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模様若クハ色彩ニ係ル新規ノ意
匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ専用スルコ
トヲ得

第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

- 一 風俗ヲ害スヘキモノ
- 二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添
ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘ
シ

第四條 意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲ
シテ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大
臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ其登録証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖
面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ

○第三類 ○商法篇 ○意匠條例

日ヨリ起算ス

第七條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條 意匠専用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ

共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠専用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠専用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲スヘシ

第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
一 意匠ノ登録ヲ出願スルトキ
一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金五十錢

二 登録意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ
 一意匠ニ付物品一類毎ニ 金三圓

三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ
 證書一枚毎ニ 金壹圓

四 登録証ノ改訂ヲ出願スルトキ
 一意匠ニ付物品一類毎ニ 金貳圓

五 審判ヲ請求スルトキ
 一事件毎ニ 金七圓

第十九條 意匠登録証又ハ其改訂登録証ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登録料ヲ納ムヘシ
 一 三年ノ専用 金壹圓
 二 五年ノ専用 金二圓
 三 七年ノ専用 金四圓
 四 十年ノ専用 金八圓

第二十條 登録意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録意匠ノ専用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償

ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録意匠ナルコトヲ知り之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録証ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登録意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十五條 第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品

○第三類○商法篇○意匠條例○意匠條例施行細則

ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 登錄意匠主第十七條ノ登錄標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○第二款 意匠條例施行細則

▲明治廿二年一月農商務省令第二號

意匠條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

(別冊)

意匠條例施行細則

第一條 意匠條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ其明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載シ圖面ニ通テ添フヘシ

一 意匠ノ名稱

二 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱

三 意匠ノ詳細説明

四 專用權請求ノ區域

第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ意匠ヲ明了ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

寫真ヲ以テ意匠ヲ示スコトヲ得ルモノハ之ヲ圖面ニ代用スルコトヲ得

第四條 意匠登錄願書ハ其意匠ヲ應用スヘキ物品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第五條 意匠登錄願書及明細書圖面ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第六條 意匠條例第十六條ニ依リ意匠登錄証ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ圖面二通ヲ添へ現意匠登錄証並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

○第三類 ○商法篇 ○意匠條例施行細則

第七條 審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書又ハ訂正圖面ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第八條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ意匠ニ變更ヲ生セサルモノニ限り其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若シハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第九條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第十條 意匠ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第十條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書ニ通圖面ニ通テ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十一條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ意匠登録証ヲ

送付スヘシ

第十二條 意匠登録証ハ第八號書式ニ依リ調製シ意匠原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

意匠條例第十五條又ハ第十六條ノ場合ニ於テ意匠登録証ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第十三條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ意匠登録証ヲ受ケント欲スルトキハ意匠原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十四條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキハ第九號及第十號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十五條 登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録証ノ日附及専用ノ年限ヲ標記スヘシ

第十六條 意匠專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録意匠主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十七條 意匠ノ登録又ハ意匠登録証ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ意匠ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録意匠ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十八條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一類 衣服
- 衣、裳、外套、襯衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等
- 第二類 頭飾、服飾、帽子
- 櫛、簪、根掛等○胸飾、腕環、指環、釦鈕等○各種ノ帽子
- 第三類 時計及其附屬品
- 袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等
- 第四類 傘、杖及履物類
- 各種ノ傘、杖○下駄、草履、靴等
- 第五類 携帶品
- 烟具、扇、懷中物、手提等
- 第六類 家具
- 棚、籠筥、机、椅子、卓子、寢臺等
- 第七類 敷物

段通、油團、花莖其他各種ノ敷物

第八類 煖爐及其附屬品

火鉢、煖爐、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類 點燈器

行燈、燭臺、手燭、燈籠、ランプ、瓦斯燈、電氣燈等

第十類 建築附屬品

障、戸、扉、柵、欄間、欄干等

第十一類 織物及他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛等各種ノ織物○服紗、手巾、窓掛、卓被等

第十二類 他類ニ屬セサル編物、組物

レース、打紐、飾縁等

第十三類 他類ニ屬セサル漆器(假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス)

飲食器、手箱、香合等

第十四類 他類ニ屬セサル陶器(煉化石、瓦等モ之ニ屬ス)

飲食器、花瓶、香爐等

第十五類 他類ニ屬セサル玻璃

飲食器、紋様玻璃等

第十六類 他類ニ屬セサル七寶

花瓶、香爐、手箱、香合等

第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品

貴金屬、賤金屬及合金ノ各種製品

第十八類 他類ニ屬セサル石材製品

寶石其他石類ノ各種製品

第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品

盆、箱、花臺、籃、籠、簾、柱聯、茶托、箸、硯屏、墨臺、筆筒等

第二十類 紙及他類ニ屬セサル紙製品

紋紙、擬草紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙箋等○書簡筒、文匣、一開張等

第二十一類 皮革及他類ニ屬セサル皮革製品

各種ノ紋革○文匣、馬具等

第二十二類 他類ニ屬サル物品

第十九條

特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

書式用紙美濃紙十三行二十五字詰

行二十五字詰

第一號 意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登録印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日

按出者 氏名 印

二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第二號 意匠按出者他人ト連名ノ意匠登録證ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

○第三類○商法篇○意匠條例施行細則

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)ノ按出候
モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相
受度尤登録證ノ儀ハ何某本籍ヲモト連名ニテ下付相成度此段相
願候也

本籍(及現住所)

年月日 按出者 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第二號 意匠按出者他人ノ記名ニテ意匠登録
證ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)ノ按出
候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登
録相受度尤登録證ノ儀ハ何某本籍ヲモト連名ニテ下付相成度
此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 按出者 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第四號 相續者ヨリ意匠ノ
登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

右ハ亡何某ノ按出ニ係リ私相續候處別紙明細書及圖面(寫眞)
ノ通ノ意匠ニシテ意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年
ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 按出者 亡何某相續者
登録願人 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第五號 他人ノ按出ニ係ル意匠
ノ登録ヲ願出ルトキ

○第三類 ○商法篇 ○意匠條例施行細則

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共、當會社、當組合)ヨリ何某本籍ヲモ記スヘシニ託シ按出セシメタルモノニ有之
意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日

登録願人 氏 名 印

又ハ所在地

登録願人 會社(組合)名 社印

社(組)長又ハ重役

氏 名 印

會社又ハ組合ヨリ差出ス書面
ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第六號 意匠登録證ノ再下付ヲ願出ルトキ

意匠登録證再下付願

一第何號意匠登録證

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一何々 登録意匠ノ名
稱ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

右私(私共)所有意匠登録證何々事由ヲ記スヘシニ依リ毀損(亡失)候
ニ付意匠登録證再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日

登録意匠主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第七號 意匠登録證ノ改訂ヲ願出ルトキ

意匠登録證改訂願

一第何號意匠登録證

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一何々 意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

右私(私共)所有意匠登録證附屬ノ明細書(圖面又ハ寫眞)中何々事由ヲ記ノ爲メ登録ノ效力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ意匠ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂意匠登録證下付相成度別紙改訂明細書(改訂圖面又ハ寫眞)並ニ現意匠登録證及附屬明細書(圖面又ハ寫眞)相添此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日

農商務大臣氏名殿

登録意匠主 氏 名 印

第八號 意匠登録證書式

第何號

意匠登録證(改訂意匠登録證)

本籍(及現住所)

何々(意匠ノ名稱)

氏

名

意匠條例ニ據リ前記ノ意匠ヲ登録シ本証附屬明細書ノ請求區域ニ對シ右記名ノ者ニ何年間專用權ヲ與フルモノ也

表

年月日

農商務大臣 氏 名 印

特許局長 氏 名 印

何々(下付ノ事由)

年月日

特許局長 氏 名 印

第九號 登録意匠ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキ

登録意匠賣與(讓與、共有)又ハ書入(登録請求書)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

- 一 第何號意匠登録證
- 一 何々登録意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一 按出者氏名

右私(私共)所有登録意匠ヲ別紙約定書之通賣與(讓與共有又ハ書入)候間登録相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日

登録意匠主 氏 名 印

本籍(及現住所)

買受(讓受、共)人氏名印

特許局長氏名殿

第十號 書入中ノ登録意匠ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキ

登録意匠賣與(讓與)共有

一 第何號意匠登録証

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一 何々 登録意匠ノ名

一 按出者氏名

右私(私共)所有登録意匠ハ何年何月何日附ノ約定書ニ依リ何本籍ヲモ某記スヘシ 書入致置候處今般別紙約定書之通賣與(讓與、共)

有又ハ書入)候間登録相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日

登録意匠主

氏 名 印

本籍(及現住所)

買受(讓受、共有)人 氏 名 印

特許局長氏名殿

明細書文例

(備考)

- 一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ
- 二 明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス
- 三 明細書ハ書損ナキ様認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分

ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字
ニハ一ノ縦線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ
四 明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及
宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

(備考)

- 一 圖面ハ礬水引ノ純白ナル美濃紙ヲ用ヒ凡ッ其上部曲尺一寸下部八
分左三分右一寸五分ヲ餘シ豎曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ之
ヲ認メ其面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺
印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス
- 二 圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ豎ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙
面ヲ豎横混合シテ用フヘカラス
- 三 圖面ハ成ルヘシ一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加ス
ヘカラス
- 四 意匠ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス
- 五 圖面ハ色彩ニ係ルモノ、外一切着色スヘカラス
- 六 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一部分

- ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及
符號ハ圖ノ妨ケトナラサル様濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ
- 七 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シ
テ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ
施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施スト
キハ其部分タケ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ
- 八 截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘ
シ又截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ノ差ヒタル斜線ヲ用フ
ヘシ
- 九 活版ニ應用スヘキ文字及記號ノ形狀ニ係ル意匠ノ圖面ヲ製スルニ
ハ左ノ心得ニ依ルヘシ
 - 一、片假名平假名數字若クハ羅馬字ノ如キ數ニ定限アル文字等ノ
形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其各字形等ノ全體ヲ示スヘシ
 - 一、漢字ノ如キ數ニ定限ナキ文字ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其
各字形ノ全體ヲ示スヲ要セス唯之ヲ構成スル部分即チ偏、旁、冠、
構等ノ各種類ヲ舉ケテ其形狀ヲ示スヘシ若シ又偏、旁等ノ一部分
ヲ以テ示シ難キ文字全體ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其全般ヲ推

短スルニ足ルヘキ若干ノ字意ニ依テ之ヲ示スヘシ
 一、文字ノ全體又ハ偏、旁等ニ關セス唯其點畫ニ屬スル形狀ニ係ル
 意匠ナルトキハ各種點畫ノ形狀並ニ之ヲ以テ組成セル文字ノ全體
 數種ヲ示スヘシ
 第一形狀ノ意匠ヲ記
 載シタル一例

明細書

煖爐ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第八類中砲狀煖爐トス
 此意匠ハ別紙圖面ニ示シ且ツ左ニ逐一記載スル如キ新規ナル
 各部ト其組合トヲ包括ス
 一部ヲ扉ヘノ裝飾方トス即チ圓狀ノ通風版ニ下部兩隅ノ菊
 花形ハト上部兩隅ノ葉形ヘト中間ナル四分菊花形ノ裝飾ト
 ヨリ成ルモノナリ
 一部ハ煖爐中ノナル部分ノ形狀ト裝飾方トニ係リ突縁チト上
 ニ向テ漸ク歛小スル凸曲面ヲ有シ且ツ上端ニ鋸齒狀ノ模様ヲ
 附ケタル帶狀ヲ具フル部分リト截頭圓錐狀ノ環るト四分圓狀

凹曲面ヲ有スル環をト半圓狀菊花形ヲ並列シタル環わト四分
 圓狀凸曲面ヲ有スル環かト覆版よトヨリ成ル
 一部ハ煖爐ノ脚ノ形狀ト裝飾方トニ在リ即チ葉形ねヲ有シ且
 ツ相會シテ角ヲ成ス所ノ上部側版ワト菊花形及ヒ葉形ノ裝飾
 らヲ有スル下部なトヨリ成ル

煖爐ノ體部ニ屬スル意匠ハ別紙圖面ニ示シタル如キ形狀ト裝
 飾トヲ具フルろハ兩部分ヨリ成リ其ハナル部分ハたれそノ諸
 部分ヲ有ス

本意匠ノ全體ハ扉ヘトろハ兩部分ト脚トヲ包含ス但シ此等諸
 部分ノ形狀及ヒ裝飾方ハ煖爐ノ全體ヲシテ恰モ別紙圖面ニ示
 シタル觀ヲ呈セシムル如クナルモノトス
 此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

- 一煖爐ノ意匠中別紙圖面ニ示ス如ク通風版ニト菊花形ハト
 葉形ヘト四分菊花形トヨリ成ル扉ヘノ裝飾方
- 二煖爐ノ意匠中前記ノ如クちりぬるをわかよノ諸部分ヨリ
 成ル部分ろノ形狀及ヒ裝飾方
- 三煖爐ノ意匠中別紙圖面ニ示シ且ツ前ニ記スル如キつねな

らノ諸部分ヨリ成ル脚ノ形状及ヒ裝飾方
 四前記ノ如キ形状及ヒ裝飾ヲ有スルろは兩部分ヨリ成ル煖
 爐ノ體部ノ意匠
 五前記ノ如キ形状及ヒ裝飾ヲ有スル扉イトろは兩部分ト脚
 トヨリ成ル全體ノ意匠

又ハ
 氏 名 印

會社(組合)名 社 印

社(組)長又ハ重役

氏 名 印

會社又ハ組合ヨリ差出ス明細書及
 圖面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

氏 名 印

(此處ノ煖爐ノ意匠圖畧ス)

第二 模様ノ意匠ヲ記
 載シタル一例

明細書

織物模様ノ意匠
 此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中一切ノ織物トス
 此模様ハ別紙圖面ニ示ス如ク形状相同シク且ツ大イサ相等シ
 キ二重六瓣ノ花紋ノ縦列スル距離ヲ其横列スル距離ノ二倍
 トシ相隣接セル四花毎ニ菱形ヲ爲スノ位置ニ之ヲ配リ唐草模
 樣ろ及ヒ一對ツ、斜メニ向ヒ合ヒタル鳥模様ハニテ之ヲ繫キ
 更ニ木瓜形にナ横列セル花紋ノ間ニ置キテ成ルモノニ係ル
 此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
 一別紙圖面ニ示シ且ツ前ニ記スル如キ唐草ろト鳥はトヨリ
 成ル繫キ模様

二前記ノ二重六瓣花紋ハ前項ノ模様ニテ繋キ且ツ横列セ
ル花紋ノ間ニ木瓜形ニテ置キテ成ル全體ノ意匠

氏名印

氏名印

(此處ノ織物模様ノ意匠圖畧ス)

第三詩繪ノ意匠ヲ記
載シタル一例

明細書

詩繪ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十三類中香合トス

此詩繪ハ丸香合ノ表裏ニ施スモノニシテ拾遺和歌集ニ載スル
所ノ貫之ノ歌「をもひかねいもかりゆけは冬の夜の川かせさ
むみちどりなくなり」ノ意ヲ畫ト文字トニテ表ハシタルモノ
ニ係ル

此圖様ハ蓋ノ表面(通常黒漆地)ニ詩繪(通常金ノ平詩繪)ニテ三
羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ別紙圖面中ハハシテ描キ其下ニ詩繪
(通常金ノ研出シ)ニテ小波ヲ圖中ノ如ク顯ハシ其直上ニ右
歌ノ中ノ詞「冬の夜」ノ二字ヲ(通常平嵌ノ銀金貝ニテ)圖中ハ
如ク嵌入シテ成ル又蓋ノ裏面ニハ表面ノ千鳥ト同一ノ詩繪ニ
テ二羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ圖中にノ如ク描クナリ
此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一前記ノ如ク香合ノ蓋ノ表面ニ三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ描キ
其下ニ小波ヲ顯ハシ小波ノ直上ニ「冬の夜」ノ三字ヲ記シ
タル圖様

二第一項ノ意匠ヲ施シタル香合ノ蓋ノ裏面ニ前記ノ如ク二
羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ描キタル圖様

氏名印

氏名印

第一圖 第二圖

(此處ノ蒔繪ノ意匠圖畧ス)

第四色彩ノ意匠ヲ記
載シタル一例

明細書

織物色彩ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中絹織物、綿織物及ヒ交織物トス

此意匠ハ市松形ノ上ニ唐草ト蝶トヲ附シタル在來ノ模様ヲ用

ヒテ之ニ新規ノ色彩ヲ施シタルモノニ係リ其色ノ配合ハ別紙圖面ニ示ス如ク市松形ハ一ツ舍キニ淡藍ト白茶トノ二色ニ分チ其淡藍地ノ所ニハ唐草ニテハ同シキ白茶ニテ出シ白茶地ノ所ニハ唐草ハチルニ同シキ淡藍ニテ出シ又唐草ノ間ニ在ル蝶模様ヘハ總テ黄色ニスルモノトス
此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一前記ノ如ク市松形チ一ツ舍キニ淡藍ト白茶トノ二色ニ分チ其淡藍地ノ所ハ唐草チ白茶ニ白茶地ノ所ハ唐草チ淡藍ニ出シテ唐草ノ間ニ在ル蝶模様チ黄色ニシタル全體ノ色彩

氏名印

氏名印

(此處ノ織物色彩ノ意匠圖畧ス)

○第三類○商法篇○意匠條例施行細則

第五 字形ノ意匠ヲ記
載シタル一例

明細書

平假名文字ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第二十二類中活版トス

此意匠ハ別紙圖面ニ示ス如ク一條ノ平綬ヲ屈曲シテ各字體ヲ

形成セシメ更ニ其首尾ノ兩端ヲ捲キタル狀ノモノニ陰ヲ施シ

テ成ルモノナリ

此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一前記ノ如ク平綬ヲ以テ字體ヲ成シ首尾兩端ヲ捲キ之ニ陰

ヲ施シテ成ル平假名文字ノ意匠

氏 名 印

(此處ノ平假名文字意匠圖畧ス)

氏 名 印

○第三款 意匠登録料上納方

▲(本書第三類第二章第三款ニ載ス)

○第四款 意匠明細書其他請求手續

▲(本書第三類第二章第四款ニ載ス)

○第三類 ○商法篇 ○意匠登録料上納方 ○意匠明細書其他請求手續 ○商標條例 六百十一

○第四章 商標

○第一款 商標條例

▲明治廿一年十二月勅令第八十六號

朕商標條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十六號

商標條例

- 第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ専用スルコトヲ得
- 商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ
- 第二條 左ニ掲グル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトシ
 - 一 風俗ヲ害スヘキモノ
 - 二 商品普通ノ名稱若クハ内外國ノ國旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ
 - 三 他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ
- 第三條 商標ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出ヘシ

第四條 商標ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲ

シテ其商標ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登録シ其登録証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標専用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

○第三類 ○商法篇 ○商標條例

- 第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス
- 第十二條 登錄商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス
- 第十三條 登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登錄ノ効ヲ失フモノトス
 - 一 登錄商標主相當ノ事故ナクシテ商標登錄ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ
 - 二 登錄商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ
 - 三 登錄商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ
 - 四 登錄商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ
 - 五 登錄商標主磨滅若クハ飲損シタル商標ヲ使用シタルトキ
- 第十四條 登錄商標主其專用年限滿期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登錄ヲ出願スルコトヲ得

- 第十五條 登錄商標主其登錄証ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得
- 第十六條 登錄商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添ヘ登錄証ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス
- 第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
 - 一 商標ノ登錄ヲ出願スルトキ 金一圓
 - 一 商標ニ付商品一類毎ニ 金三圓
 - 二 登錄商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登錄ヲ請求スルトキ 金一圓
 - 三 登錄証ノ再下付ヲ出願スルトキ 証書一枚毎ニ 金一圓
 - 四 登錄証ノ改訂ヲ出願スルトキ 一 商標ニ付商品一類毎ニ 金二圓
 - 五 審判ヲ請求スルトキ 一 事件毎ニ 金七圓

第十八條 商標登録証又ハ其改訂登録証又ハ其續用登録証ヲ受クル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登録料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覧ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録証ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘシ

カラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○第二款 商標條例施行細則

▲明治廿二年一月農商務省令第三號

商標條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ但明治十七年(六月)太政官第十三號布達商標登録願手續ハ明治二十二年二月一日ヨリ廢止ス

(別冊)

商標條例施行細則

第一條 商標條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

○第三類○商法篇○商標條例施行細則

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ商標ノ見本一箇ヲ掲ケ左ノ諸件ヲ

記載シテ別ニ商標ノ見本一箇ヲ添フヘシ

一 商標全部構造ノ詳細説明

二 商標ノ要部

三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱

四 商標使用ノ方法

第三條 商標登録願書ハ其商標ヲ使用スヘキ商品類別一類毎ニ各別ニ差
出スヘシ

第四條 商標登録願書明細書及見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願
人ニ領收書ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ
從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第五條 商標條例第十六條ニ依リ商標登録証ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事
由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ見本二箇ヲ添ヘ現商標登
録証並ニ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

第六條 審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ不完全ノ廉アリト認メタルト
ニ依リ改訂商標登録証ヲ送付スヘシ

キハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ
訂正書又ハ訂正見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出
願ヲ無効トス

第七條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書見本等ニ過誤アルコトヲ發見
シタルトキハ商標ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限り其訂正ヲ請求ス
ルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモ
ノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第八條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス
第九條 商標ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘ
テ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十條 出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ商標條例第十
八條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書一通見本一箇及
商標ノ印版ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ差出スヘシ此期限内
ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ
商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ商標登録証ヲ送
付スヘシ

第十一條 商標登錄証ハ第六號書式ニ依リ調製シ商標原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

商標條例第十五條又ハ第十六條ノ場合ニ於テ商標登錄証ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第十二條 商標條例第十二條ニ依リ賣與、讓與又ハ共有ノ登錄ヲ請求スルトキハ第七號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登錄シ約定書ニ登錄濟ノ証印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十三條 商標專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登錄商標主氏名ヲ變換シ若クハ其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十四條 商標ノ登錄又ハ商標登錄証ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ商標ノ登錄ヲ無効トシタルトキ其他登錄商標ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ商標公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十五條 特許局ニ差出シタル商標ノ印版不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其請取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ請取方ヲ爲サ、ルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノト

ス

第十六條 商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 化學品及藥劑

酸類、鹽類、アルカリ、漂白粉、護膜、膠、燐、石鹼、酒精、グリセリン、キナエン、モルヒネ、丁幾劑、舍利別、煎劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等

第二類 染料及顏料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、藤黃等

第三類 塗料

漆、假漆、油漆、澁、靴墨等

第四類 香料及燻料

香油、髮膏、香袋、香水、炷香、線香、煉香等

第五類 金屬及其半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類 金屬ノ製品

鑄物、打物、彫鏤品及編物等

○第三類○商法篇○商標條例施行細則

第七類 利器及尖刃器

鎌、鋤、鑿、錐、鑿、針、釘、剪刀、小刀、剃刀、庖丁、齧嘴等

第八類 貴金屬及其製品(アルミニウム金、ニッケル銀ノ製品モ之ニ屬ス)

第九類 黃金、銀、四合一、紫銅其他貴金屬ノ合金鑲品、彫鑲品、モール等
珠玉及其彫鑲品

第十類 珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等及其模造品
鑲物類(但石炭ハ第五十一類ニ屬ス)

第十一類 石材及其製品並彫鑲品
版石、大理石、砒石、石器等及其模造品

第十二類 漆喰類

漆喰、セメント、石膏等

第十三類 陶磁器類

諸種ノ陶磁器、土器、埴埴、瓦、煉化石等

第十四類 七寶燒

第十五類 玻璃及其製品

玻璃壺、玻璃管、彩色玻璃等

第十六類 機械類

紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機其他諸製造機械、汽機、汽罐等

第十七類 農工器具

犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、繩墨等

第十八類 學術上ノ器械

理化學、醫術及測量等ノ器械

第十九類 度量權衡

第二十類 運送用ノ車類

荷車、馬車、人力車、自轉車等

第二十一類 樂器

琴、三味線、胡弓、笛等

第二十二類 時計及其附屬品

第二十三類 銃砲、彈丸、火藥、烟火等

第二十四類 蠶種紙、繭

第二十五類 眞綿及木棉綿

第二十六類 生絲、絹絲及天蠶絲(琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス)

第二十七類 綿絲

- 第二十八類 毛絲
- 第二十九類 麻絲
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木綿織物
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織物
- 第三十四類 絹、綿、麻、毛外ノ織物及各種ノ交織物
- 第三十五類 絲類ノ編物及組物
レース、打紐、網等
- 第三十六類 被服
諸種ノ衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安等
- 第三十七類 釀造物及飲料
諸種ノ酒、酢、醬油、蜜柑水、曹達水、氷等
- 第三十八類 砂糖類
諸種ノ砂糖、糖蜜、蜂蜜等
- 第三十九類 菓子及麵包類
干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、飴、砂糖漬等

- 第四十類 茶及咖啡類
- 第四十一類 烟草類
- 第四十二類 穀、菜、種子及菓物類
五穀、蔬菜、蕈、菓實、種子、根球、麴種モヤシ等
- 第四十三類 挽粉、澱粉及其製品
諸種ノ挽粉、澱粉、麪類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等
- 第四十四類 味噌、醬物及漬物類
- 第四十五類 貯藏食品
鱈節、鰯、乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、諸種ノ鹹製品等
- 第四十六類 牛乳製品
凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
- 第四十七類 烟具及袋物
諸種ノ烟管、烟袋、烟管筒、懷中物等
- 第四十八類 紙及其製品
諸種ノ紙、色紙、短冊、擬草紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、元結等
- 第四十九類 筆、墨類

- 筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、ペン等
- 第五十類 皮革及其製品
- 馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓弦等
- 第五十一類 ^{カズ}燃料類
- 諸種ノ炭、附木、摺附木、燈心等
- 第五十二類 油、蠟類
- 諸種ノ油、蠟、蠟燭、脂肪等
- 第五十三類 肥料
- 干鱈、鯡粕、油粕、骨粉等
- 第五十四類 木竹材
- 第五十五類 木、竹、藤製品及其漆塗、蒔繪品類
- 指物、挽物、曲物、桶類、編物、組物等
- 第五十六類 角、甲、牙類ノ製品
- 第五十七類 藁及草ノ製品
- 疊表、蒔、編笠、繩、麥藁細工等
- 第五十八類 傘、杖及履物
- 諸種ノ傘、杖、下駄、草履、鼻緒等

- 第五十九類 扇子及團扇
- 第六十類 提燈及ランプ類
- 第六十一類 齒磨及洗粉
- 第六十二類 刷子及鬚類
- 第六十三類 玩具類
- 花簪、鞠、碁、將碁、人形、獨樂、楊弓、押繪、造花、骨牌等
- 第六十四類 錦繪及寫真類
- 第六十五類 書籍新聞紙、雜誌類
- 第六十六類 他類ニ屬セサル商品
- 第十七條 特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス
- 書式用紙美濃紙十三
- 行二十五字詰
- 第一號 商標ノ登錄ヲ願出ルトキ

商標登錄願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候

○第三類○商法篇○商標條例施行細則

間登錄相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年 月 日
營業名 出願商標ヲ使用スル
業名以下此例ニ依ル
登錄願人 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第二號 會社又ハ組合ヨリ商標
ノ登錄ヲ願出ルトキ

商標登錄願

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候
間登錄相受度此段相願候也

所在地

營業名

年 月 日

登錄願人 會社(組合)名 社印
社(組)長又ハ重役

氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第三號 登錄商標ノ續用
ヲ願出ルトキ

登錄商標續用登錄願

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一第何號商標登錄証
右私所有登錄商標來ル明治何年何月何日ニテ專用年限滿期之
處尙ホ引續キ專用致度ニ付更ニ登錄相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年 月 日

登錄商標主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第四號 商標登錄証ノ再下
付ヲ願出ルトキ

商標登錄証再下付願

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一第何號商標登錄証

○第三類○商法篇○商標條例施行細則

右私所有商標登錄証何々事由ヲ記ニ依リ毀損(亡失)候ニ付商標登錄証再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日

登錄商標主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第五號 商標登錄証ノ改訂ヲ願出ルトキ

商標登錄証改訂願

一第何號商標登錄証

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右私所有商標登錄証附屬ノ明細書(見本)中何々事由ヲ記ノ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ商標ノ要部ニ變更ヲ生スル義無之候間改訂商標登錄証下付相成度別紙改訂明細書(改訂見本)並ニ現商標登錄証及附屬明細書(見本)相添此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日

登錄商標主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第六號 商標登錄証書式

第何號

商標登錄証(改訂商標登錄証)

本籍(及現住所)

營業名

氏 名

表

商標條例ニ據リ本証附屬明細書ニ記載ノ商標ヲ登錄シ右記名ノ者ニ二十年間專用權ヲ與フルモノ也

年月日

農商務大臣 氏 名 印

特許局長 氏 名 印

裏
何々下付ノ
事由

年月日

特許局長 氏 名 印

第七號 登錄商標ノ賣與、讓與又ハ共
有ノ登錄ヲ請求スルトキ

登錄商標賣與(讓與)又
ハ共有(登錄)請求書

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一第何號商標登錄証

右私所有登錄商標ヲ別紙約定書之通營業ト共ニ賣與(讓與)又ハ

共有(候間)登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日

登錄商標主 氏 名 印

本籍(及現住所)

買受(讓受)人 氏 名 印

特許局長氏名殿

明細書文例

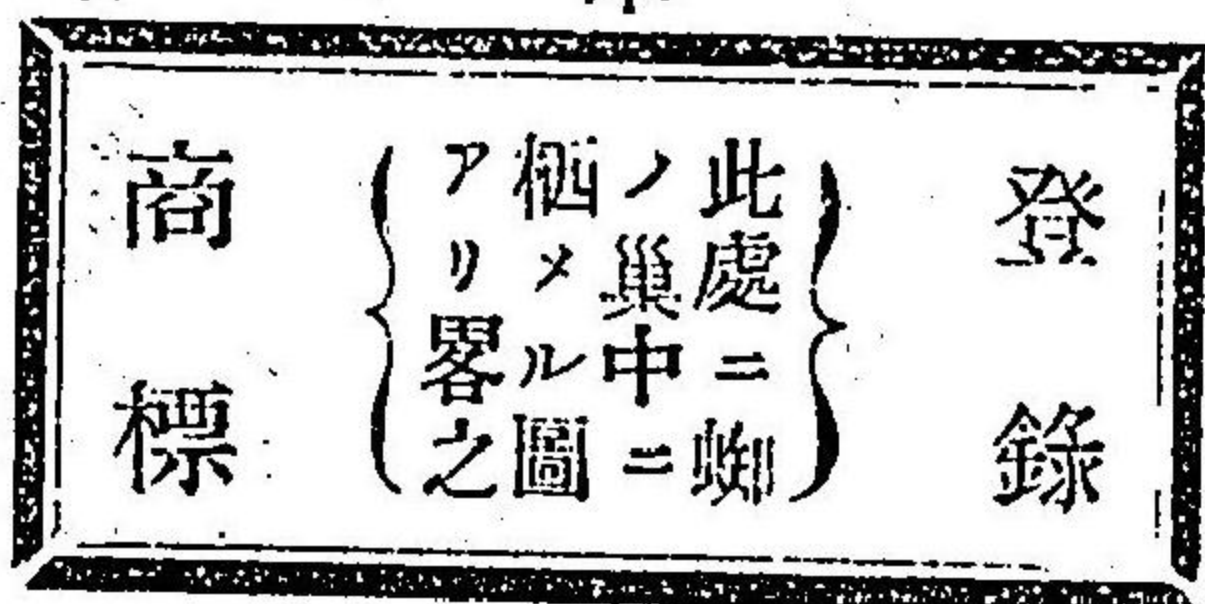
(備考)

- 一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ
- 二 明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス
- 三 明細書ニ見本ヲ掲グルニハ其商標全部ノ眞形ヲ摸寫シ又ハ印刷シ又ハ摸寫若クハ印刷セルモノヲ貼附スヘシ但シ之ヲ貼附シタルトキハ商標ト明細書用紙トニ懸ケテ捺印スヘシ
- 四 明細書ハ書損ナキ様認トヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルト

キハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縦線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

五 明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

明細書



商標見本

- 一 此商標ハ子母線ヲ以テ横長方形ノ鋼ヲ設ケ其正中ニ蜘蛛ノ巢中ニ栖メル圖ヲ畫キ其右側ニ登録左側ニ商標ト楷書ニテ記シタルモノナリ
- 一 此商標ノ要部ハ蜘蛛ノ巢中ニ栖メル圖ナリ
- 一 此商標ハ商標條例施行細則第十六條第三十類ノ絹織物ニ使用ス
- 一 此商標ハ厚紙ノ小牌ニ印刷シテ絹織物ニ結ヒ附ケ又ハ絹織物ノ上包ニ印刷シテ使用ス

又ハ

氏名印

會社(組合)名組社印

社(組)長又ハ重役

氏名印

第三款 商標登録料上納方

▲(本書第三類第二章第二款ニ載ス)

○第三類 ○商法篇 ○商標登録料上納方 ○商標公報其
 ○他請求手續 ○横濱正金銀行條例

○第四款 商標公報其他請求手續
▲(本書第三類第二章第四款ニ載ス)

○第五章 銀行

○第一款 橫濱正金銀行條例

▲明治廿二年二月勅令第十號

朕橫濱正金銀行條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十號

明治二十年(七月)勅令第二十九號橫濱正金銀行條例中左ノ通改正シ明治二十二年六月一日ヨリ施行ス

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラレ、者モ亦同シ
第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スル所爲アルトキ又大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ

制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

○第二款 銀行諸証書印章押用ノ件

▲明治廿一年十二月大藏省訓令第四十七號 北海道廳 府縣

諸証書ニ押用スル印章ノ儀ニ付客年十二月第六十八號ヲ以テ及訓令置候處今般日本銀行ヨリ請願ノ趣ニ據リ役印押用ノ儀及認可候條爾今私立銀行及銀行類似會社ニ於テモ適宜役印ヲ押用セシメ苦シカラヌ

○第六章 米商

○第一款 米商會所稅率

▲明治廿一年十一月勅令第七十五號

朕米商會所稅率改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十五號

明治十八年(十一月)第三十八號布告米商會所並株式取引所收稅規則第一

○第三類 ○商法篇 ○銀行諸証書印章押用ノ件 ○米商會所稅率 六百三十七
○藥品營業並藥品取扱規則

條中米穀定期賣買千分ノ二ヲ万分ノ六ニ改ム但明治二十一年十二月一日ヨリ施行ス

○第七章 藥品

○第一款 藥品營業並藥品取扱規則

▲明治廿二年三月法律第十號

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十號

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由

シ內務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

○第三類○商法篇○藥品營業並藥品取扱規則

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省畧シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非レハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試

驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコト得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其証票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十

○第三類○商法篇○藥品營業並藥品取扱規則

五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効チ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年(八月)第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得

此場合ニ於テハ内務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年(二月)第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○第二款 藥品中毒藥劇藥ノ品目

▲明治廿二年三月内務省令第五號

明治二十二年(三月)法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據リ毒藥劇藥ノ品目左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

毒藥

- 青酸、稀青酸、青酸加里
- 亞砒酸 (白砒石、礬石) (アルセニツキ) 亞砒酸加留謨液 (法列兒氏水)
- 沃度化砒素、沃度化砒汞液 (度納般氏液) 硫化砒素 (鷄冠、雄黃、雌黃)
- 黄色酸化汞 (黃降) (赤降) (昇汞) (猛汞、ソツビ) (ル、生々乳) 白降汞、硝酸汞

○第三類 ○商法篇 ○藥品中毒藥劇藥ノ品目

赤色沃度化汞

猛毒アルカロイド及ヒ其鹽類

アコニチネ、亞剎莫兒比涅、亞篤魯必涅、ブルチーネ、コニーネ、エメ

チーネ、比蘇斯知偏密涅(エセリ)非沃斯矢亞密涅、莫兒比涅、ナルコ

チーネ、ニコチーネ、必魯加兒必涅、斯篤里幾尼涅、勃拉篤里涅等

實菱答利涅

クラーレ(矢毒)

加刺拔兒豆越幾斯篤拉屈篤

揮發苦扁桃油

巴豆油

劇藥

硫酸、粗製硫酸、發烟硫酸

硝酸、粗製硝酸、發烟硝酸

鹽酸、粗製鹽酸

硝鹽酸(王水)

石炭酸、粗製石炭酸

格羅謨酸及ヒ其鹽類

苛性加里及ヒ其鹵液

苛性曹達及ヒ其鹵液

強安母尼亞水

沃度、沃度丁幾丟兒、沃歲仿謨、沃度化加留謨、含糖沃度化鐵、沃度化鐵

丸

貌羅謨(臭素)、貌羅謨化樟腦

格魯兒化拔留謨、硝酸拔留謨

稼酸攝留謨、硝酸攝留謨

吐酒石及ヒ其製劑、酸化安知母紐謨、硫化安知母紐謨(金硫)

醋酸亞鉛、炭酸亞鉛、格魯兒化亞鉛、酸化亞鉛(亞鉛)硫酸亞鉛(皓礬) 橫

草酸亞鉛醋酸鉛(鉛糖)次醋酸鉛液(鉛醋)、炭酸鉛、酸化鉛

醋酸銅、銅礬(神効)硝酸銅、硫酸銅安母紐謨(銅礬)硫酸銅(丹礬)

甘汞、輕粉、黃色沃度化汞、硫酸汞、汞灰散、藍丸

硝酸銀、硝酸銀加硝石

亞硝酸亞密爾

嚼嚼仿謨及ヒ其製劑 附コロゲイン
 抱水格魯刺爾
 知母爾
 結麗阿曹篤
 古垚乙涅
 咖啡涅
 古加乙涅
 珊篤寧及ヒ其製劑
 剝度比璽林
 苦扁挑水、杏仁水、老利兒結兒斯水、ハクテ水
 羯答利斯、斑猫、莞菁及ヒ其製劑
 麥角及ヒ其製劑
 印度大麻葉及ヒ其製劑
 實菱答利斯葉及ヒ其製劑
 別刺敦那葉、根及ヒ其製劑
 菘若葉、根及ヒ其製劑
 非沃斯矢亞謨斯葉、子及ヒ其製劑

蔓陀羅華葉、子及ヒ其製劑
 耶僕蘭日葉
 魯別利亞葉及ヒ其製劑
 サビナ葉及ヒ其製劑
 古魯聖篤實及ヒ其製劑
 コニユ—ム草及ヒ其製劑
 刺苦丟葛留謨及ヒ其製劑
 偏答百兒加液
 サビナ油
 揮發芥子油
 阿片及ヒ其製劑
 フコニット根 (雙蘭菊、烏頭及) 及ヒ其製劑
 及ヒ其製劑
 藜蘆根
 吐根及ヒ其製劑 附托物兒氏散
 蒺刺巴根
 蒺刺巴脂及ヒ其製劑
 古爾矢屈謨子、根及ヒ其製劑

○第三類○商法篇○藥品中毒藥劇藥ノ品目○藥品試驗法 六百四十九

サハシルラ子

番木鱈子及其製劑

巴豆

加刺拔兒豆

藤黃

日本產大茴香

○第三款 藥品試驗法

▲明治二十一年九月內務省令第七號

鹽酸古加乙涅安知歇貌林ノ二藥品質性狀及ヒ試驗法等左ノ通相定ム自今該二藥ハ日本藥局方所載ノモノト同様取扱ヘシ

但鹽酸古加乙涅ハ同藥局方第三表所載ノ藥品ニ同シ

鹽酸古加乙涅

Cocaini Hydrochloras

鹽酸古加乙涅ハ白色無臭ノ小葉狀或ハ稜柱狀結晶或ハ結晶性ノ粉末ニシテ弱酸性ノ反應ヲ微シ其味少シク苦ク舌上ニ鈍麻ノ感覺ヲ起シ大約〇五分ノ水及二分ノ酒精ニ溶解ス白金板上ニ熱スレハ固性物ヲ遺サスシテ燃

化スヘシ

本品ニ少量ノ硫酸ヲ加フレハ泡沸シテ無色ニ溶解スヘシ其溶液ヲ重湯煎上ニ温ムルコト大約十分時間ノ後少量ノ水ヲ加ヘテ放冷スレハ夥シク安息香酸ノ結晶ヲ折出スヘシ

本品ノ水溶液(一%)ハ硝酸銀ニ由テ稀硝酸ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス然レトモ硝酸拔留膜ニ由テ蛋白濁ヲ生スルニ過クヘカラス

本品ノ水溶液ニ加里瀉液ヲ加フレハ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ス然レトモ其際安母尼亞性ノ臭氣ヲ發スヘカラス

注意シテ貯フヘシ

(極量) 一日ノ極量〇・四瓦蘭謨一回ノ極量〇・一瓦蘭謨

安知歇貌林

Antifebrinum

安知歇貌林ハ光輝アル無色無臭ノ葉狀結晶ニシテ中性ノ反應ヲ微シ味僅ニ辛辣ナリ百十三度ノ熱ニ於テ熔融シ大約二百分ノ冷水十八分ノ熱湯及三・五分ノ酒精ニ溶解ス白金板上ニ熱スレハ固性物ヲ遺サスシテ燃化スヘシ

本品〇・一瓦蘭謨ヲ稀硫酸二立方センチメートルト共ニ二三分時間煮沸

○第三類○商法篇○藥品試驗法○藥用阿片受拂手續

シタル後更ニ酒精二三滴ヲ加ヘテ温ムレハ醋酸依的兒ノ香氣ヲ發ス之ニ
那篤倫瀉液ヲ加ヘテ亞爾加里性トナシ且ツ多量ノ水ヲ以テ稀釋シタル冷
溶液ニ格魯兒那篤倫溶液一二滴ヲ加フレハ紫堇色ヲ呈ス

○第四款 藥用阿片受拂手續

▲明治廿二年三月内務省訓令第六號

北海道廳 府縣

地方廳ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ル藥用阿片受拂手續左ノ通相定ム
藥用阿片受拂手續

一地方廳ヨリ阿片ヲ拂下シルハ明治十一年(八月)第二十一號布告第四條
ニ據リ特許ヲ得タル藥舖ニ限ルモノトス但外國人藥舖ニハ開港開市場
アル地方廳ニ於テ之ヲ拂下ク可シ

一地方廳ハ每半年分阿片拂下ノ高ヲ豫算シ一箇年兩度ニ内務省衛生局へ
請求ス可シ但缺乏ノ節ハ臨時之ヲ請求スルモ妨ナシ

一地方廳ニ於テ阿片ヲ拂下シルトキハ其都度藥舖ノ住所氏名外國人ナレ
モ記スル 瓶數代價月日等詳細簿記シ置キ每一箇年ニ會計年度ハ其國名ト
ナ要ス 瓶數代價月日等詳細簿記シ置キ每一箇年ニ會計年度ハ其國名ト
告書ヲ製シ之ニ特許藥舖ヨリ差出シタル明細表並外國人藥舖ヨリ差出
シタル書面ヲ添ヘ會計年度經過後二箇月以内ニ進達ス可シ但阿片受拂

報告ハ明治二十一年度ヨリ差出ス可キモノトス

一地方廳ニ於テ内外國人藥舖ニ阿片ヲ拂下シルトキハ代價引換ニ現品ヲ
拂渡シ該收入金ハ二箇月毎ニ取廻メ内務省會計局へ送納ス可シ

一特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ内務省告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ
加ヘ販賣スルモノトス

(報告用紙美濃野紙)

明治何年度阿片受拂報告 廳 名

受 入

受入年月日	百分含量	瓶	數	一瓶ノ價代	價
前年度ヨリ越高	十乃至十一	何	瓶	金	何程
何年何月何日	同	何	瓶	金	何程
計		何	瓶	金	何程

拂 下

拂下年月日	百分含量	瓶	數	代價	藥舖住所姓	名
-------	------	---	---	----	-------	---

○第三類○商法篇○藥用阿片受拂手續

何年何月何日	十乃至十一	何	瓶金何程	何國何郡	何	某
同	同	何	瓶金何程	區町村	何	某
計		何	瓶金何程		何	人

内

金何程

金何程

金何程

何年何月何日付ヲ以送納濟

同

受拂差引殘

送納未濟

阿片何瓶

外

明治何年何月何日現在高

金何程

右及報告候也

何年度拂下品代何年何月何日付ヲ以送納濟

明治

年月日

内務大臣宛

長官官氏名印

○第五款 藥劑師試驗規則

▲明治廿二年三月内務省令第二號

藥劑師試驗規則左ノ通之ヲ定ム

藥劑師試驗規則

第一條 藥劑師ヲラントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 藥劑師試驗ハ内務大臣ニ於テ毎年二回試驗主事者及ヒ試驗委員
ヲ選任シテ舉行スヘシ其舉行ノ地及ヒ試驗期日ハ六箇月前之ヲ告示ス
ヘシ

第三條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

學說

第一 物理學

第二 化學

第三 植物學

第四 生藥學

第五 製藥化學

實地

第一 分析術

第二 藥品鑑定

第三 藥物製煉

第四 調劑術

○第三類○商法篇○藥劑師試驗規則○藥品巡視規則

第四條 試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ試験期日三箇月前ニ内務省宛ニテ地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ試験期日一箇月前ニ之ヲ取纏メ内務省ニ進達スヘシ

第五條 試験ニ及第シタル者ニハ試験主事者ヨリ試験委員ト連署シタル及第證書ヲ與フヘシ

第六條 受験者ハ試験開場ノ前日迄ニ手数料金五圓ヲ試験主事者ニ納ムヘシ

第七條 受験上不都合ノ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 受験中疾病其他ノ事故アリテ試験ヲ完了セサル者及ヒ落第シタル者又ハ退場ヲ命シタル者ニハ手数料ヲ返付セス

第九條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

○第六款 藥品巡視規則

▲明治廿二年三月内務省令第四號

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス
藥品巡視規則

第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業並藥品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條

第三十六條第三十七條ノ事項

三 調劑錄

第三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業並藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十

六條第三十七條ノ事項

第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ

第五條 第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ

第六條 巡視ノ期日ハ豫メ告示セス其時間ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ

○第三類○商法篇○煙草稅則施行細則○烟草耕作人區別六百五十七

問トス

第七條 監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ検査スルコトアルヘシ
第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得

○第八章 煙草

○第一款 煙草稅則施行細則

▲明治廿一年九月大藏省令第十號
本年四月當省令第三號煙草稅則施行細則第三條煙草製造ノ下「又ハ煙草
仲買」ノ六字ヲ加フ

○第二款 煙草耕作人非耕作人區別

▲明治廿二年七月大藏省訓令第五十二號 府 縣(沖繩縣ヲ除ク)
煙草耕作人ト非耕作人トノ區別ヲ明カニスルハ稅則上緊要ノ事件ナルカ
故ニ右耕作人ノ届出ハ各地方收稅部出張所ニ於テ之ヲ取纏メ稅則執行上
ノ要用ニ供スヘシ尤右届出取纏メ方ハ各地ノ事宜ニ應シ簡便ヲ量リ之ヲ
施行スル儀ト心得ヘシ

○第四類 訴訟編

○第一章 裁判權限

○第一款 裁判所處務規程

▲明治廿二年三月司法省令第一號
明治十九年司法省令丙第八號裁判所處務規程中左ノ通改正シ來ル四月一
日ヨリ施行ス

裁判所處務規程

第十三條 第二項中(書記官及)ノ四字ヲ刪除シ書記ノ下ニ(會計專務書記
ヲ除ク)ノ割註ヲ加フ

第三項中書記ノ下ニ(會計專務書記ヲ除ク)ノ割註ヲ加フ

第十四條 書記ノ下ニ(會計專務書記ヲ除ク)ノ割註ヲ加フ

第十六條 第一項中所轄裁判所判任官吏ノ下ニ(會計專務書記ヲ除ク)ノ
割註ヲ加フ

第二項中始審裁判所判任官ノ下ニ(會計專務書記ヲ除ク)ノ割註ヲ加フ

第十八條 第一項中(裁判所ノ長ハ)トアルヲ(控訴院書記官ハ)ト改ム第二
項中(控訴院長ハ)トアルヲ(控訴院書記官ハ)ト改ム

第十九條 控訴院長ハノ下(會計專務勘査ノ爲メ其他)ノ十一字ヲ刪除シ

○第四類 ○訴訟篇 ○裁判所處務規程 ○裁判官檢察官會同巡視規程 六百五十九

書記ノ下ニ(會計專務書記ヲ除ク)ノ割註ヲ加フ
 第二十四條 第一項割註(檢察官ヲ除ク)トアルヲ(檢察官及會計專務書記ヲ除ク)ト改ム
 第二項割註(檢察官ヲ除ク)トアルヲ(檢察官及會計專務書記ヲ除ク)ト改ム
 但書記ノ下(官)ノ一字ヲ刪除ス
 第二十七條中書記ノ下ニ(會計專務書記ヲ除ク)ノ割註ヲ加フ

○第二欸 裁判官檢察官會同巡視規程

▲明治廿二年三月司法省訓令第四號 裁判所
 明治二十年一月訓令第四號裁判官檢察官會同巡視規程中第十條及第十二條ノ第三ヲ削除ス

○第三欸 清國並朝鮮國駐在領事裁判規則

▲明治廿一年十月勅令第七十一號
 朕清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽
 勅令第七十一號

清國並朝鮮國駐在領事裁判規則

第一條 清國並朝鮮國駐在ノ日本帝國領事ハ其管轄内ニ在ル日本人民ニ對スル民事訴訟及ヒ公訴私訴ニシテ治安裁判所違警罪裁判所始審裁判所輕罪裁判所ノ權限ニ屬スルモノヲ審判スルノ權ヲ有ス但治安裁判所違警罪裁判所ノ權限ニ屬スル訴件ニ付領事ノ爲シタル裁判ハ終審ノ裁判ナリトス
 第二條 豫審判事ノ職務ハ領事之ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ副領事警察官若クハ領事館書記生之ヲ行フ
 第三條 裁判所書記ノ職務ハ領事館書記生若クハ其他ノ館員之ヲ行フ
 第四條 輕罪ニ付テハ豫審ヲ爲サハルモノトス
 第五條 重罪ニ關スル豫審ノ手續及ヒ豫審終結ノ言渡ニ付故障ヲ爲スコトヲ許サス但豫審終結ノ言渡ニ對シテハ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得
 第六條 治罪法ニ定ムル忌避回避ノ規則ハ之ヲ適用セス
 第七條 民事訴訟及ヒ公訴私訟ノ裁判ニ對スル控訴ハ長崎控訴院重罪ニ係ル公判ハ長崎重罪裁判所ノ管轄トス
 第八條 民事訴訟及ヒ私訴ノ裁判ニ對スル控訴上告ハ本人若クハ代言人ノ出廷ヲ要セス書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得禁錮ノ言渡ヲ除クノ外公

○第四類 ○訴訟篇 ○清國並朝鮮國駐在領事裁判規則

訴ノ裁判ニ對スル控訴モ亦同シ

第九條 此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有シタル副領事又ハ其代理ヲ云フ

○第四款 治安裁判所出張所設置ノ件

▲明治二十一年九月勅令第六十四號

朕治安裁判所出張所設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十四號

治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務並期日ヲ定メ裁判事務ヲ取扱ハシム其位置及ヒ管轄區域ハ司法大臣之ヲ定ム

○第五款 治安裁判所出張所裁判假規程

▲明治二十二年五月勅令第六十七號

朕治安裁判所出張所裁判假規程ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十七號

治安裁判所出張所裁判假規程

第一條 治安裁判所出張所ニ於テ取扱フ民事事件ハ左ノ如シ

一 金錢其他換用物若シハ有價證券ノ一定シタル員額又ハ特定ノ物品ニ對スル請求

二 建物ノ全部若シハ一部ノ明渡又ハ修繕ノ請求

前二項ノ事件ハ原被告其管轄區域内ニ現在スルカ若シハ原被告共ニ出廷シテ審問裁判ヲ請フトキニ限ル

三 勸解

第二條 前條ニ記載セル事件タリトモ急速ノ取調ヲ要シ出張裁判開始ノ期ヲ待テ難キモノ又ハ第二ノ事件ニシテ契約ニ付キ争アルモノハ從前ノ通り治安裁判所本廳ニ於テ取扱ハシム

第三條 出張裁判ノ管轄區域開廷ノ場所及ヒ期日ハ司法大臣ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

出張スヘキ裁判官ハ毎年若クハ每期管轄始審裁判所長之ヲ定ム

第四條 出張裁判官ハ繁難ナリト認ムル事件ヲ治安裁判所本廳ニ移スノ命令ヲ爲スコトヲ得

第五條 出張裁判ヲ開クヘキ場所ニ該ル治安裁判所出張所ニ豫シメ訴狀

○第四類○訴訟篇○治安裁判所出張所裁判假規程○裁判所管轄區畫 六百六十三

ノ送達其他期日ニ至リ直テニ審問裁判ヲ爲スニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ
書類ハ原告人ヲシテ送達セシム可シ
第六條 裁判及ヒ命令ノ執行ニシテ開期内ニ終結シ難キモノ及ヒ執行ニ
關シ出張裁判閉期後ニ起ル故障ハ治安裁判所本廳ニ於テ取扱ハシム

○第二章 裁判管轄

○第一款 裁判所管轄區畫

▲明治廿一年十月勅令第六十五號

朕裁判所管轄區畫表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十五號

明治十六年(一月)第二號布告裁判所管轄區畫表中左ノ通改正ス

- 一 東京始審裁判所管内芝區治安裁判所ノ管轄タル東多摩郡ヲ麴町區治安裁判所ノ管轄ニ改ム
- 一 宇都宮始審裁判所管内宇都宮栃木兩治安裁判所ノ管轄タル上都賀郡ヲ宇都宮治安裁判所ノ管轄ニ改ム

- 一 浦和始審裁判所熊谷支廳管内大宮治安裁判所管轄秩父郡ヲ分割シ一秩父ノ内ト改メ熊谷川越兩治安裁判所管轄郡名中「秩父ノ内」ノ各四字ヲ加フ
- 一 浦和始審裁判所熊谷支廳管内熊谷治安裁判所管轄比企郡ヲ分割シ「比企ノ内」ト改メ川越治安裁判所管轄郡名中「比企ノ内」ノ四字ヲ加フ
- 一 前橋始審裁判所管内太田治安裁判所管轄山田郡ヲ分割シ「山田ノ内」ト改メ前橋治安裁判所管轄郡名中「山田ノ内」ノ四字ヲ加フ
- 一 前橋始審裁判所管内前橋高崎兩治安裁判所管轄西群馬ノ内「猪野川以東」猪野川以西トアル各五字ヲ削除ス
- 一 長野始審裁判所管内長野飯山兩治安裁判所ノ管轄タル上水内郡ヲ長野治安裁判所ノ管轄ニ改ム
- 一 長野始審裁判所松本支廳管内松本大町兩治安裁判所ノ管轄タル東筑摩郡ヲ松本治安裁判所ノ管轄ニ北安曇郡ヲ大町治安裁判所ノ管轄ニ改ム
- 一 松山始審裁判所管内松山治安裁判所ノ管轄タル野間郡ヲ西條治安裁判所ノ管轄ニ改ム

○第四類 ○訴訟篇 ○治安裁判所出張所位置及管轄區域 六百六十五

○治安裁判所管轄區郡分管表

○第二款 治安裁判所出張所位置及管轄區域

▲明治廿一年十月司法省令甲第一號
本年勅令第六十四號ニ依リ治安裁判所出張所位置及ヒ管轄區域別表ノ通
相定ム

北海道廳及ヒ隱岐對馬大島各島廳管内ヲ除クノ外各登記所ハ治安裁判所
出張所開廳ノ前日限リ廢止ス

(別表零ス)

○第三款 治安裁判所管轄區郡分管表

▲明治廿一年十月司法省告示第六號

今般勅令第六十五號ヲ以テ明治十六年(二月)第二號布告裁判所位置及管
轄區畫表中改正相成候ニ付同年(同月)當省甲第一號告示治安裁判所管轄
區郡分管表中左ノ通追加改正ス

熊谷治安裁判所

秩父郡ノ内

安戸村	御堂村	奧澤村	坂本村	白石村
皆谷村	柵平村	大野村	大内澤村	

比企郡ノ内

川越治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

川越治安裁判所

秩父郡ノ内

坂石村	坂石町分	南川村	北川村	南村
坂本村	高山村	上名栗村	下名栗村	
比企郡ノ内				
中山村	伊草宿	上伊草村	下伊草村	戸守村
長樂村	南園部村	北園部村	正直村	吹塚村
出丸中郷	出丸本村	出丸下村	鹿飼村	上老袋村
中老袋村	下老袋村	東本宿村	上大屋敷村	下大屋敷村
曲師村	西谷村	宮前村	釘無村	安塚村
上貉村	下貉村	角泉村	飯島村	表村
吉原村	新堀村	山ヶ谷戸村	白井沼村	平沼村
三保ノ谷宿	牛ヶ谷戸村	柴竹村	谷中村	上八ッ林村
下八ッ林村	畑中村	東大塚村	鳥羽井村	鳥羽井新田
上小見野村	下小見野村	加胡村	松永村	一本木村

○第四類○訴訟篇○治安裁判所管轄區郡分管表

虫塚村 梅ノ木村

大宮治安裁判所

秩父郡ノ内

熊谷川越兩治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

前橋治安裁判所

西群馬郡ノ内

箱田村	下新田村	小相木村	前箱田村	江田村
古市村	後閑村	川曲村	稻荷新田	元總社村
内藤分村	大友村	大渡村	總社村	植野村
高井村	澁川村	伊香保村	湯中子村	水澤村
北牧村	白井村	吹屋村	横堀村	小野子村
村上村	上白井村	中ノ郷村	中山村	尻高村
石原村	湯ノ上村	中村	八木原村	半田村
有馬村	山子田村	新井村	長岡村	上野田村
下野田村	小倉村	北下村	南下村	金井村
川島村	阿久津村	祖母島村	南牧村	大久保村
川原島新田	漆原村			

山田郡ノ内

大間々町

桐原村

淺原村

長尾根村

小平村

鹽原村

高崎治安裁判所

西群馬郡ノ内

前橋治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

太田治安裁判所

山田郡ノ内

前橋治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

松本治安裁判所分管ノ内

上伊那郡ノ内

小野村

伊那宮村

上島村

辰野村

上訪諏治安裁判所

上伊那郡ノ内

藤澤村

長藤村

上山田村

下山田村

小原村

勝間村

芝平村

荊口村

山室村

非持村

東箕輪村

樋口村

澤底村

平出村

赤羽村

○第四類○訴訟篇○治安裁判所管轄區郡分管表○代言營業願方ノ件 六百六十九

黒河内村 溝口村 中尾村 市ノ瀬村 杉島村
浦 村

○第三章 代言

○第一欸 代言營業出願方ノ件

▲明治廿二年三月司法省訓令第五號

檢 事

明治二十年勅令第十三號學位令ニ依リ法學博士ノ學位ヲ得タル者代言營業ヲ出願セシトキハ代理人規則第二十七條第二十八條ニ關セズ免許狀ヲ授與スヘキニ付出願ニ際シ學位記ヲ檢査シ其寫ヲ願書ニ添テ進達スヘシ

○第五類 刑法

○第一章 罰則

○第一欸 賭博犯處分規則廢止ノ件

▲明治廿二年六月法律第十七號

朕明治十七年第一號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

法律第十七號

明治十七年第一號布告ヲ廢ス

〔參照〕第一號布告(明治十七年一月四日)

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘ
トモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官
ナシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム(別
紙畧ス)

廳 府 縣

▲明治廿二年六月内務省訓令第二十六號

本年法律第十七號ヲ以テ明治十七年第一號布告廢止ニ就テハ右法律頒布
前ニ係ル賭博犯ニシテ其未タ處斷ヲ經サルモノハ管轄裁判所ニ送致ス可
シ

○第二欸 密賣淫取締懲罰布告廢止ノ件

朕明治十四年第六十四號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第八十號

明治十四年第六十四號布告ヲ廢ス

〔參照〕明治十四年(十二月)第六十四號布告

○第五類 ○刑法

○賭博犯處分規則廢止ノ件
○密賣淫取締懲罰布告廢止ノ件

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘ但當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任ス
▲明治廿一年十二月内務省訓令第二十五號 廳 府 縣

明治九年内務省乙第九號達同十五年乙第十七號達ヲ廢ス
〔參照〕明治九年（一月）内務省乙第九號達

本年第一號ヲ以改定律例第二百六十七條廢シノ儀御布告相成候ニ付テハ過料三拾圓以内懲戒六箇月以内適宜ノ方法ヲ設ケ賣淫取締一層行届候様處分可致此旨相達候事但取締方法當省ニ可届出事

明治十五年（三月）内務省乙第十七號達

九年當省乙第二十五號賣淫罰金支拂費目相達置候處右ハ苦使費警察探偵費ニ遣拂仍ホ餘リアレハ檢徴費ニ補充苦シカラスト改正ス此旨相達候事

○第二章 軍律

○第一款 陸軍刑法

▲明治廿一年十二月法律第三號

朕陸軍刑法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第三號

陸軍刑法中左ノ通改正ス

第十二條第一項 第九十五條ノ下第百五條ノ四字ヲ加フ

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻

守ノ用ニ供スヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若シクハ秘密ヲ要スル兵

器彈藥ノ製法其他軍機軍情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス

第百五條 軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密

ヲ漏洩スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○第二款 海軍刑法

▲明治廿一年十二月法律第四號

朕海軍刑法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第四號

海軍刑法中左ノ通改正ス

○第五類 ○刑法 ○陸軍刑法 ○海軍刑法 ○陸軍懲罰令

第三條第一項 第九十二條ノ上ニ第八十四條ノ五字ヲ加フ

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守

ノ用ニ供スヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若クハ秘密ヲ要スル兵器彈

藥ノ製法其他軍機軍情ヲ漏洩シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十四條 軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機

密ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附

加ス

○第三款 陸軍懲罰令

▲明治二十二年四月勅令第五十九號

朕陸軍懲罰令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十九號

陸軍懲罰令中左ノ通改正ス

第三條末項改正

獨立若クハ分屯ノ大隊長及憲兵隊長ハ第一項ニ獨立若クハ分屯ノ中隊

長及分遣隊長タル中少尉並ニ憲兵分隊長ハ第二項ニ軍樂隊長ハ第三項

ニ同シ

第四條第二項追加

教官ニシテ部隊ヲ率キ他方ニ出ツルトキ其最高級ノ者懲罰ノ處分ヲ爲

スコトヲ得其權限大中佐ハ前條第一項ニ少佐ハ第二項ニ大尉ハ第三項

ニ準ス

○第六類 治罪法

○第一章 治罪法

○第一款 大赦令

▲明治廿二年二月勅令第十二號

朕憲法ヲ發布スルニ當リ此盛典ヲ表シ惠澤ヲ施サンカ爲ニ特ニ命シテ左

ノ條項ニ依リ大赦ヲ行ハシム

御名 御璽

勅令第十二號

第一條 本令發布以前ニ於テ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法第百十七條第百十九條ノ罪

二 刑法第百二十一條第百二十三條第百二十五條第百二十六條第百二

○第六類 ○治罪法 ○大赦令

- 十七條ノ罪
- 三 刑法第二百二十九條第三百十條第三百一十一條第三百二十二條第三百二十三條第三百二十四條ノ罪
- 四 刑法第三百二十六條第三百二十七條第三百二十八條ノ罪
- 五 刑法第四百一十一條ノ罪
- 六 陸軍刑法第五十條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條ノ罪
- 七 陸軍刑法第六十六條第六十七條ノ罪
- 八 陸軍刑法第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
- 九 陸軍刑法第九十三條第九十四條ノ罪
- 十 陸軍刑法第九十九條第一百條ノ罪
- 十一 海軍刑法第五十六條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
- 十二 海軍刑法第八十六條第八十七條ノ罪
- 十三 海軍刑法第一百條第一百一條ノ罪

- 十四 海軍刑法第一百十條第一百十一條ノ罪
- 十五 海軍刑法第二百二十六條ノ罪
- 十六 保安條例ノ罪
- 十七 集會條例ノ罪
- 十八 治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ爆發物取締罰則ヲ犯ス罪
- 十九 新聞紙條例第二十一條第二十二條ニ違ヒ第三十條第三十一條ニ該ル罪及ヒ第三十二條ヲ犯ス罪但第三十條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル新聞紙ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セズ
- 政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第一條第三條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十九條ニ該ル罪
- 二十 出版條例第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第二十四條ヲ犯ス罪但第二十七條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セズ
- 政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第三條ニ違ヒ第二十一條ニ該ル

○第六類○治罪法○大赦令○大赦施行手續

罪第六條第七條ニ違ヒ第二十二條第二十三條ニ該ル罪及ヒ第十
五條第十九條第二十條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪

第二條 舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪
ト同一ナル者ハ之ヲ赦免ス

第三條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪赦免ヲ得タル場合
ト雖モ他ノ罪ニ其効ヲ及ホサス

第四條 赦免ヲ得ルト雖モ既ニ徵收シタル罰金科料及ヒ沒收シタル物件
ハ還付セズ

第五條 陸軍大臣海軍大臣司法大臣ハ本令ノ施行ニ關シ必要ノ指揮ヲ爲
ス可シ

○第二款 大赦施行手續

▲明治廿二年二月司法省訓令第三號 檢事長 檢事 廳府縣 東京府
本年勅令第十二號ヲ以テ大赦ノ儀公布相成候ニ付テハ右施行方左ノ手續
ニ從フヘシ

大赦施行手續

第一條 本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判

決ヲ經タルト否トヲ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トヲ別ダス
總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡未タ確定セサル者言
渡確定スルモ未タ其執行ニ著手セサル者及ヒ其執行中ニ係ル者ニ對シ
テハ原裁判所ノ檢察官ヨリ速ニ赦免ヲ得タル旨ヲ通知シ在監中ノ者ハ
之ヲ赦免スヘシ

第三條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若シハ數罪併科セラレタル
者又ハ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者赦免ヲ得タルニ因
リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付執
行シタル刑ヲ通算ス

若シ數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者ノ裁判言渡ニ疑點 (裁判言渡
得タル罪ノミニ付刑期金額ヲ示シ其) アルトキハ檢察官ヨリ刑ノ言渡
他ノ罪ニ付テハ之ヲ示サ、ルノ類) ナ爲シタル裁判所ニ其說明ヲ請フヘシ

第四條 赦免ヲ得ヘキ囚人原裁判所ノ管轄地外ノ監獄ニ在ルトキハ典獄
ヨリ最近ノ始審裁判所 (本廳又) 檢察官ニ通知スヘシ
通知ヲ受ケタル檢察官ハ第二條ノ處分ヲ爲スヘシ若シ其囚人ノ裁判言
渡ニ付原裁判所ノ説明又ハ訴訟書類ノ取調ヲ要シ直ニ處分ヲ爲シ難キ

場合ニ於テハ其事件ヲ原裁判所ノ檢察官ニ送致スヘシ
通知ヲ受ケタル檢察官第二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ原裁判所
ノ檢察官ニ通知スヘシ

第五條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監視又ハ特別監視執行中ニ係ル者ハ執行地
ノ警察官ヨリ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ若シ其執行地原裁判所ノ
管轄地外ニ係ルトキハ最近ノ始審裁判所(本廳又ハ支廳)檢察官ニ通知スヘシ
通知ヲ受ケタル檢察官ハ監視又ハ特別監視ヲ免スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付豫審又ハ公判中ニ係ル事件ニ付テハ檢察官
(上訴中ノ事件ニ付テハ其上訴
ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官)ヨリ公訴ヲ拋棄スルノ手續ヲ爲スヘシ
第七條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ヨ
リ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ檢察官ニ於テ事實ヲ精査シ證明
ヲ與フヘシ

第八條 勅令第十二號第一條第十九項第二段及ヒ第二十項第二段ニ記載
シタル犯罪ニ付テハ檢察官ニ於テ發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文
書圖書ノ性質其他裁判言渡ニ認メタル事實ニ因リ政治ニ關スル意思ニ
出テタル者ナルト否トヲ査定スヘシ

第九條 大赦ノ施行ニ付疑ヒアルトキハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ具狀

シテ指揮ヲ請フヘシ
第十條 大赦ノ執行ニ關スル處分ハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ報告スヘ
シ

▲明治廿二年二月司法省告示第二號
本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行
ヲ終リタル者ニシテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ント欲スルトキハ刑ノ言
渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ申出ツヘシ

但明治十四年以前司法省佐賀、萩、九州、其他ノ臨時裁判所ニ於テ處斷
ヲ受ケタル者ハ大審院檢事長ニ申出ツヘシ

○第三款 清國朝鮮國駐在領事裁判規則

▲明治廿一年十月勅令第七十一號
朕清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
勅令第七十一號

清國並朝鮮國駐在領事裁判規則
第一條 清國並朝鮮國駐在ノ日本帝國領事ハ其管轄内ニ在ル日本人民ニ

對スル民事訴訟及ヒ公訴私訴ニシテ治安裁判所違警罪裁判所始審裁判所輕罪裁判所ノ權限ニ屬スルモノヲ審判スルノ權ヲ有ス但治安裁判所違警罪裁判所ノ權限ニ屬スル訴件ニ付領事ノ爲シタル裁判ハ終審ノ裁判ナリトス

第二條 豫審判事ノ職務ハ領事之ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ副領事警察官若クハ領事館書記生之ヲ行フ

第三條 裁判所書記ノ職務ハ領事館書記生若クハ其他ノ館員之ヲ行フ

第四條 輕罪ニ付テハ豫審ヲ爲サルモノトス

第五條 重罪ニ關スル豫審ノ手續及ヒ豫審終結ノ言渡ニ付故障ヲ爲スコトヲ許サス但豫審終結ノ言渡ニ對シテハ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第六條 治罪法ニ定ムル忌避回避ノ規則ハ之ヲ適用セズ

第七條 民事訴訟及ヒ公訴私訴ノ裁判ニ對スル控訴ハ長崎控訴院重罪ニ

係ル公判ハ長崎重罪裁判所ノ管轄トス

第八條 民事訴訟及ヒ私訴ノ裁判ニ對スル控訴上告ハ本人若クハ代理人

ノ出廷ヲ要セス書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得禁錮ノ言渡ヲ除クノ外公

訴ノ裁判ニ對スル控訴モ亦同シ

第九條 此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀

ヲ有シタル副領事又ハ其代理ヲ云フ

○第四款 恩給ヲ有スル者犯罪ノ件

▲明治廿一年十月司法省訓令第十二號

明治十八年(一月)本省丁第一號達及同年(五月)本省丁第十三號達ハ廢止ス

(參照) 明治十八年(一月)司法省丁第一號達 大審院 裁判所

自今官吏及ヒ陸海軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ爲シ又ハ扶助料ヲ受クル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處シタル時ハ直ニ其宣告文寫書ヲ添當省へ可届出此旨相達候事

但本文中明治十六年當省丁第二十五號達ニ據テ可届出事件ニ係ル時ハ其旨ヲ明記シ宣告文寫書ハ二通可差出儀ト心得ヘシ

明治十八年(五月)司法省丁第十三號達 大審院 裁判所
官吏及ヒ陸海軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ爲シ又ハ扶助料ヲ受クル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處シタル時其届出方ノ儀本年丁第一號ヲ以テ相達置候處明治八年太政官第四十八號達陸軍武官傷痕扶助及死亡者祭案

家族扶助概則並ニ同年太政官第四百八十八號達海軍退隱令ニ據リ扶助料又ハ退隱料ヲ受クル者モ右達ニ準シ當省へ可届出此旨相達候事

○第二章 監獄

○第一款 監獄則

▲明治廿二年七月勅令第九十三號

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

勅令第九十三號

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑

ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘置監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘖啞者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監 北海道ニ在ル及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄

ハ警視總監北海道廳長官府縣知事 東京府 之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事 東京府ハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄

ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘置監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收証ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ

○第六類 ○治罪法 ○監獄則

其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス
第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歲ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄圍内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ解放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

四 滿十六歲以上二十歲未滿再犯ノ者

五 滿二十歲以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

- 一 滿八歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

第十四條 地方監獄拘置監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分テ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ每囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一

日ノ科程ヲ定メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日二日 元始祭

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭

天長節 新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若シハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ自衣ヲ著スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スル

○第六類○治罪法○監獄則

コト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四 七合乃至八合 最モ強キ作業ニ服スル者

一 麥 十分ノ六 五合乃至六合 作業ニ服スル者

一 同 四合 作業ニ服セサル者

一 同 三合 十歳未滿ノ幼者

一 菜 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ講求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第二十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人ニハ毎日四時以内讀書習字算

術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フト

キハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送り來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典

獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判官言渡アル迄辯護人ヲ除クノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付ス但死亡後二十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木勝ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁

判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルキハ他物ニ於テモ亦同シ新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及內務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ
賞譽セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス
一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課ス

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス
三 闔室 闔室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

○第六類○治罪法○監獄則

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内開室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量

リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ開室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下両脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス
若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス
丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施鉄中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鉄ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施鉄期限ニ算入セス

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘留スルコトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

○第二款 監獄則施行細則
▲明治廿二年七月內務省令第八號
監獄則施行細則左ノ通相定ム
監獄則施行細則

第一章 規程

- 第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ
- 第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房内ニ於テ通身ヲ検査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ房内揭示ノ事項ヲ説示スヘシ
- 第三條 各監房内ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ
 - 一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ遵守スヘシ
 - 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ
 - 一 刑事被告人ヲ拘禁スル監房ニハ此項ヲ除ク
 - 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁圓圍等ヲ掃除スヘシ

- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス
- 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リニ起歩スヘカラス但晝間ト雖放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房へ通聲交談スヘカラス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戲ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヘカラス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス
- 一 許可ヲ得スシテ物件ヲ受授貸借スヘカラス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ
- 第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ証印スヘシ
- 領置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄免幽閉假出場ノ時之ヲ下付スヘシ
- 第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人へ告知ノ上之ヲ賣却シテ

○第六類 ○治罪法 ○監獄則施行細則

其代金ヲ領置スルコトヲ得

第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第四條第五終ノ例ニ依ル

第七條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ検査ヲ爲スヘシ

第九條 通身ノ検査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ在ラス

第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ

第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ

第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ

第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サ

シムヘシ但押送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ

第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ検査スヘシ

第十五條 囚人及懲治人ノ赦免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ

第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名等ヲ問糺シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ刑事被告人ニシテ赦免保釋及責付スヘキ者アルトキモ亦同シ

第十七條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ證印セシムヘシ

第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルヲ得サラシメ裁判所又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルヲ得ス

第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ

第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ憂ナキ様嚴

緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシ

○第六類○治罪法○監獄則施行細則

第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ

第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日若クハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ

第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ

已ムテ得サル事故アリテ一時限外ニ出ノコトヲ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スルコトアルヘシ

第二十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十六條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上

現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除ク外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自衣著用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニ在ラズ

第三十三條 囚人ノ監房ニハ疊ヲ數クコトヲ得ス但病室及拘留囚ノ監房

ハ此限ニ在ラス

第三十四條 密室ハ拘置監ニ設クヘシ

闇室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス

密室及闇室ハ一室一人ヲ限トス

第三十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設クヘシ

第三十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲メ其製式ヲ同クスヘシ

第三十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第三十九條 看守所ニハ闇室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ル、ノ虞ナカラシムヘシ

第二章 役法及時限

第四十二條 定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ

診視セシメテ強弱ヲ分チ就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米瓦工煉化石工石工碎石鍛冶工油

絞工耕耘木挽工抄紙工木工桶工藁工炊事掃除ノ内ヲ撰ムヘシ

女囚ノ作業ハ紡績裁縫機織洗濯ノ内ヲ撰ムヘシ

右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石開墾採礦土方石工耕耘運搬若クハ監獄ノ用ニ限

リ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ此割合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條 定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラス

第四十六條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ難キトキト雖他ノ作業ニ就ケ休役セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ還房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條 在監人ノ起床ヨリ就寢ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五十條 起床還房就役罷役就寢其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第三章 工錢

第五十一條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十二條 免役日ニ於テ囚人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第五十四條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人ノ衣類並ニ刑事被告人ニ貸與スル

衣類ハ淺葱色ニシテ總テ筒袖トシ長短二種ニ分ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第五十五條 囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺葱色トシ各自ニ貸與シ二人以上合著セシムルコトヲ得ス

第五十六條 刑事被告人ノ著用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚穢シテ衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十七條 在監人ノ衣服ノ外襟及蒲團ニハ白布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ墨書スヘシ

第五十八條 在監人ニ貸與スル衣類雜具左ノ如シ

通常服

一 單衣

一 袴

一 綿入

一 襦袢

就役服

一 單衣

一 袴

- 一 綿入
- 一 襦袢
- 一 股引
- 一 雜具
- 一 蒲團
- 一 蚊囀
- 一 莞筵
- 一 木枕
- 一 帶
- 一 尺
- 一 禪尺
- 一 手巾
- 一 篋
- 一 笠
- 一 履物

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澣濯補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得此他草鞋用紙ハ之ヲ付與ス

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與スルコトヲ得

極寒ノ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ足袋ヲ貸與スルコトヲ得
 第五十九條 病者ニ貸與スル衣類雜具ハ醫師ノ意見ヲ問ヒタル上典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得

第六十條 病者ノ食量ハ醫師ノ診斷ニ依テ之ヲ増減スヘシ
 第六十一條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ証明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許可スルコトアルヘシ

第六十二條 囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其種類分量ハ典獄豫メ制限ヲ設クヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得ス但其購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

- 第六十四條 食用器具左ノ如シ
- 一 木椀
- 一 箸
- 一 飯器

第六十五條 監房常置ノ器具左ノ如シ

○第六類○治罪法○監獄則施行細則

- 一貯水器並ニ飲器 木製
- 一唾壺 木製又ハ竹製
- 一便器 木製大小二種但監房ニ廁圍ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス
- 一小箒 草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ
- 一洗手盆 木製

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ廁圍並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澗ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條 入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔

ナラサル様梳理セシムヘシ但鬚髮ヲ剃刈セノコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髮ヲ短薙セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ澗濯ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノトス

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト隔離シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死

亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診案ニ據リ病症及其因由並ニ死亡ノ年月日時ヲ名籍簿ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ

第七十九條 死者ノ親屬若シハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖下付ヲ請フ者アルトキハ

第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑

第八十二條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引

取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石

テ代價ヲ遞送スルコトヲ得但遞送費ハ親屬ノ自辨トス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シ

第六章 書信及接見

第八十三條 在監人ヨリ發スル信書ハ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘遞

第八十四條 官司ノ訊問ニ由テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコ

第八十五條 信書ヲ檢閲スルハ先ツ直行順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ

第八十六條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所

職業及緣由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノトス

接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監又ハ

第八十七條 辨護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キ

トキニ限リ訊問所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

○第六類○治罪法○監獄則施行則細

病囚トノ接見ハ危篤ノ際ニ限リ病室ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得
第八十八條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス

第七章 差入品

第八十九條 刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及烟草ヲ除キ監獄内ニ
於テ炊烹ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第九十條 總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ検査シ毒氣酒氣又
ハ包藏物其他通謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精檢スヘシ但飲食物ノ
検査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第九十一條 検査ノ爲メ解縫シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ
原形ニ復スヘシ

第九十二條 免幽閉ヲ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ
受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ
於テ之ヲ行フヘシ

第九十四條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間又ハ罷役後
ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九章 賞譽

第九十五條 監獄則ニ依リ賞譽セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺
葱色ノ布ヲ用ヒ賞譽セシ毎ニ之ヲ與ヘ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著
スルモノトス

第九十六條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

一 第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス

二 書信ハ一箇月ニ二通二次之ヲ爲スコトヲ許ス

三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタ、シムルコトアルヘシ

四 賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ作業ノ勞働稍輕キモノヲ課シ且
飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ増加ス

五 賞表三箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ將來生計ノ爲メ作業ノ變換ヲ請
ハシムルコトヲ得

六 賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外菜ヲ一週
ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇以上ヲ得タル者ニハ三回
増給ス但其價ハ一回一錢ニ過クルコトヲ得ス

第九十七條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金二十五錢以下
ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラズ

○第六類○治罪法○監獄則施行細則

- 一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ
 - 二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
 - 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ
- 第九十八條 刑事被告人ニシテ前條ノ所爲アルトキハ之ヲ録シテ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第十章 懲罰

第九十九條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ

第一百條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケサル者ト別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第一百一條 犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルコトヲ得

數犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ

第一百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限リ其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第一百三條 兩脚ニ鈇ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施鈇期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ鈇ハ免除スルコトヲ得

第一百四條 鈇ヲ施シタル者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施鈇期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其鈇ヲ免除スルコトヲ得

第一百五條 假ニ鈇ヲ免除シタル者其罰期內更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施鈇期限ニ算入スヘカラス

第一百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ

附則

此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長之ニ當ルヘシ

在監人動作時限表

月名	時限	起床	監房掃除	飯	就役	午	飯	罷役	還房	就寢	服役時間合計
一月	午前六時	一時	午前七時	十二時	ヨリ	午後三時	三十分	五時	迄	午後八時	七時卅分時間
二月	六時	一時	七時	十二時	ヨリ	四時	迄	五時卅分	迄	八時	八時時間
三月	五時三十分	一時	六時三十分	十二時	ヨリ	四時	迄	五時卅分	迄	八時	八時卅分時間
四月	五時	一時	六時	十二時	ヨリ	四時三十分	迄	六時卅分	迄	九時	九時卅分時間
五月	五時	一時	六時	十二時	ヨリ	五時	迄	七時	迄	九時	九時卅分時間

○第六類○治罪法○監獄則施行細則○監獄建物處分方ノ件七百十五

六月	四時一時間	五時三十分	五時三十分	九時	十時卅分時間
七月	四時一時間	五時三十分	五時三十分	九時	十時卅分時間
八月	四時三十分	五時三十分	五時三十分	九時	十時卅分時間
九月	五時一時間	六時	六時	九時	九時卅分時間
十月	五時三十分	六時三十分	六時三十分	八時	八時卅分時間
十一月	六時一時間	七時	七時	八時	八時卅分時間
十二月	六時三十分	七時三十分	七時三十分	八時	八時卅分時間

備考
一 就役罷役及還房ノ時間ヲ除クノ外ハ囚人ニシテ服役セサル者懲治人
一 炊事又ハ病者ノ看護ニ從事スル囚人並ニ病者ノ起床及就寢時間ハ本
表ニ依ルノ限リニ在ラス

△明治廿二年七月内務省訓令第三十三號
監獄則施行細則第二條同第二十三條及刑法附則第三十九條ニ所定ノ名籍
假出獄證票ノ雛形並ニ特赦免幽閉假出獄ノ申渡及賞表授與式左ノ通相定
ム(雛形其他式畧ス)

○第三款 監獄建物處分方ノ件

△明治廿一年十二月内務省訓令第二十六號 廳 府 縣
監獄内ノ建物ニシテ左ニ掲グルモノハ自今稟請ヲ要セス處分シテ後其位
置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏メ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ
一 倉庫ノ新築
一 物置ノ新築
一 人民控所ノ新築
一 小使部屋ノ新築
一 監舎ニ屬セサル厠ノ新築
一 馬建ノ築

△明治廿二年六月内務省訓令第廿七號 廳 府 縣
監獄新築改築又ハ監房建設ノトキヲ除クノ外自今監獄ニ係ル建物ハ廿一
年十二月當省訓令第二十六號ニ掲ケサルモノト雖モ稟請ヲ要セス處分シ
テ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏メ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

○第四款 監獄費用ニ關スル件

△明治廿一年九月内務省訓令第十九號 警視廳 府 縣 沖繩縣
明治十七年本省乙第二十九號達ニ據リ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣

○第六類 ○治罪法 ○監獄費用ニ關スル件 ○假留監聯合地方區分 七百十七

獄ニ在ル者ノ費用トシテ交付スル金額ハ府縣會ノ議決ヲ經地方稅ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

▲明治廿一年十月内務省訓令第二十二號

警視廳 府縣 沖繩縣

監獄則ニヨリ在監人ニ給與スル工錢ハ自今府縣會ノ議決ヲ經監獄費内譯ニ給與錢ノ目ヲ設ケテ之ヲ支拂ヒ其工錢ハ監獄費雜入ニ編入スルコトヲ得

○第五款 假留監聯合地方區分

▲明治廿一年九月内務省訓令第十八號

警視廳 府縣 北海道廳東京府 假留監

明治十七年年七月當省乙第三十號達聯合地方區分中東京假留監聯合地方茨城縣ヲ宮城假留監聯合地方ニ改ム

▲明治廿二年一月内務省訓令第三號

警視廳 府縣 北海道廳東京府 假留監

明治十七年七月當省乙第三十號聯合地方區分中兵庫假留監聯合地方ニ奈良縣及香川縣ヲ加フ

○第六款 看守及監獄傭人分掌例

▲明治廿二年六月内務省訓令第二十九號

廳府縣 集治監 假留監

看守及監獄傭人ノ分掌例左ノ通改ム

第一章 看守ノ職務

第一條 晝夜交番シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ

第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ

第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等

ヲ點檢スヘシ

第四條 在監人ノ郷貫、氏名、年齢、罪質、刑名等ヲ記應スルハ勿論日々ノ

行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢閱ニ供スヘシ

第五條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ

第六條 服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ交換シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ到ルカ如キ所爲ナカラシムヘシ

第七條 漸ニ入監スルモノアルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後

監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第八條 監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ漫リニ通行セシムヘカラス

○第六類 ○治罪法 ○看守及監獄傭人分掌例

第九條 監房ノ開閉ヲ掌リ其鎖否ヲ點檢スヘシ

第十條 工場、器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失
ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

第十一條 炊場、浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

第十二條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴
密ニ取糺シ其証跡ヲ明舉シテ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第十三條 密室監禁者及屏禁、闇室、獨愼者ノ動靜ハ特ニ之ヲ觀察シ其狀
况ヲ看守長若クハ看守副長ニ具申スヘシ

第十四條 戒具ハ日々點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ

第十五條 食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會ヒ不正
不良ノ所爲ナカラシムヘシ

第十六條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ

第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ

第十八條 在監人中ニ急發病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ
申告スヘシ

第十九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ
避ケシムルノ準備ヲナシ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ

但事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ違ナキトキハ救護ノ爲メ一時房外
ニ出スコトヲ得

第二十條 反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配
ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上官ニ報告スヘシ

但事急遽ニ出テ摑キ難キトキハ直ニ追跡スルコトヲ得

第二十一條 在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモ
ノアルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十二條 監房、炊場、浴場、廁圍、工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシ
ムヘシ

第二十三條 押丁、授業手ノ在監人ニ接スル狀態ヲ觀察シ若シ相狂ル、
モノアルヲ認ムルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十四條 監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ
申告スヘシ押丁ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

第二十五條 在監人ノ押送ヲ掌リ其押送中ハ在監人ノ路人ト聲語シ又ハ
之ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカラシム
ヘシ

第二十六條 在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若

シハ看守副長ニ申告スヘシ若シ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ致スヘシ

第二十七條 文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ

第二章 教誨師ノ職務

第二十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ專ラ已決囚及懲治人ノ教誨ニ從事シ又懲治人及十六歳未満ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキモノトス

第二十九條 新ニ入監スル已決囚若クハ懲治人アルカ又ハ賞表ヲ受クヘキ者アルトキハ其者ニ對シ特ニ教誨ヲ爲スヘシ其出獄スルトキモ亦同シ

第三十條 在監人ノ起居、動靜、勸怠及其行狀ノ良否ハ時々其狀ヲ具シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條 監房ヲ巡迴シ修身齊家ノ講談ヲ爲シ又揭示條項等ヲ解説スヘシ

第三十二條 懲治人ノ就學、年月、卒業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第三十三條 在監人ノ賞罰ニ付典獄ヨリ意見ヲ問フコトアルトキハ之ニ報答スヘシ

第三十四條 獄則處分ヲ受ケ受罰中ノ者アルトキハ其居所ニ就キ教誨ヲ加ヘ又其狀況ヲ視察シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十五條 受罰者ニシテ改悛ノ狀顯著ナルヲ認知セシトキハ典獄ニ具狀スヘシ

第三十六條 授學上及教誨上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第三十七條 特赦、免幽閉、假出獄、假出場、假免懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會フヘシ

第三章 醫師ノ職務

第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ従事スヘキモノトス

第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報答スヘシ

第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名、病性、徵候、治否、及處方

○第六類○治罪法○看守及監獄傭人分掌例

ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第四十一條 已決囚新ニ入監スルトキハ其體質ヲ検査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡迴シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ其病症及感染ノ形狀ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ閤室等ノ懲罰ニ處セラルヘキ者ヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其証明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ユヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者攝生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シ

テ許可ヲ受クヘシ

第四十九條 患者癡篤疾若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄並ニ看守長ト俱ニ驗屍シ其死亡ノ原由及病症、死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ検査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械並ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ検査スヘシ

七百二十五

○第六類○治罪法○看守及監獄備人分掌例

第四章 女監取締ノ職務

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒護其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 看守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス

第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十一條 作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第五章 押丁ノ職務

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ搜檢スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒護ニ從事スヘシ

第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ從事スヘシ

第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ檢査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監門及監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ

第六十七條 看守ノ立會ヒヲ受ケ食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ

第七十條 看守ノ立會ヒヲ受ケ作業器械及素品製品ノ受渡ヲナスヘシ

第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ

第七十二條 獄具及消防具等ヲ監守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ

第七十三條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

第七十六條 在監人ノ行狀ノ良否ヲ認知シタルトキハ之ヲ手帖ニ記シ置キ看守ニ申告スヘシ

第七十七條 炊場浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

○第六類 ○治罪法 ○看守及監獄傭人分掌例

第六章 授業者ノ職務

- 第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農業工業等ヲ教授スヘシ
- 第七十九條 受業囚ヲ督勵シ科程ノ了否ヲ注視スヘシ
- 第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ
- 第八十一條 役業ノ科程及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ
- 第八十二條 役業ノ廢設及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ
- 第八十三條 役業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ニ申告スヘシ
- 第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ
- 第八十五條 毎月受業囚ノ勤怠及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

○第三章 軍律

○第一款 陸軍治罪法

▲明治廿一年十月法律第二號

朕陸軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二號

陸軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

陸軍治罪法

第一章 總則

- 第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス
- 陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス
- 第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス
- 第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ
- 海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

○第六類 ○治罪法 ○陸軍治罪法

第四條 長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及ヒ合團ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百條第百一條第百二十三條第三項第百四十六條第百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 各師管ニハ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク

東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合團ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士理事若クハ理事試補及ヒ錄事ヲ以テ構成

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士	長判士	判士	士	被告	人
佐官	一名	尉官	四名	陸海軍下士	
佐官	一名	大尉若クハ中尉	二名	陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官	
佐官	一名	大尉	二名	陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐若クハ中佐	一名	大尉	二名	陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐	一名	中尉	二名	陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人	
少將	一名	中尉	二名	陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人	
中將	一名	少將	二名	陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人	

判 士 長		判 士		被 告 人	
中 將	一 名	少 將	二 名	陸 軍 少 將 及 同 等	陸 軍 少 將 及 同 等
大 將	一 名	中 將	二 名	陸 軍 中 將 及 同 等	陸 軍 中 將 及 同 等
大 將	一 名	大 將	三 名	陸 軍 大 將	陸 軍 大 將
第 二 表					
佐 官	一 名	尉 官	四 名	陸 海 軍 下 士 以 下 軍 人	陸 海 軍 下 士 以 下 軍 人
佐 官	一 名	大 尉 若 少 中 尉	二 名	陸 軍 少 尉 及 同 等	陸 軍 少 尉 及 同 等
佐 官	一 名	中 尉	二 名	陸 海 軍 中 尉 及 同 等	陸 海 軍 中 尉 及 同 等
大 佐 若 少 中 佐	一 名	大 尉	二 名	陸 軍 大 尉 及 同 等	陸 軍 大 尉 及 同 等
大 佐	一 名	中 尉	二 名	陸 軍 中 尉 及 同 等	陸 軍 中 尉 及 同 等
少 將	一 名	少 尉	二 名	陸 軍 少 尉 及 同 等	陸 軍 少 尉 及 同 等
中 將	一 名	大 尉	二 名	陸 軍 大 尉 及 同 等	陸 軍 大 尉 及 同 等

第十二條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸軍大臣之ヲ命シ師管旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命ス

師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ師團長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第十三條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルトコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ理事ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條 判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

- 一 被告人被害者及其配偶者ノ親屬
- 二 被告人被害者ノ後見人

○第六類○治罪法○陸軍治罪法

三告發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第十六條 原裁判ニ從事シタル判士長判士理事ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス但關席裁判ニ對スル再審ニ於テハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第三項ノ場合ニ於テ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命ゼスシテ被告人ヲ他ノ師管旅管ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第十八條 師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第十九條 軍人管轄地外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但他ノ軍法會議ニ於テ爲シタル關席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條 軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條 合圍ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪

ヲ審判ス

第二十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第二十七條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先ニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキ亦同シ

第二十八條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕

罪トシテ審判ニ着手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス
第二十九條 軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議
ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其
管轄ト爲ス

第四章 陸軍檢察

第二十條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ收集ス

第二十一條 陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一 憲兵ノ將校下士

二 師團副官

三 旅團副官

四 警備隊司令官

第三十二條 各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司
令ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處
分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ
理事職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタルトキハ訊問及ヒ檢証ノ
處分ヲ爲ス可シ

第三十三條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ

地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大
隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ豫審判事檢事司法警察官ニ之ヲ告訴ス
ルコトヲ得

第三十四條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ
記載シタル諸官ニ之ヲ告發スルコトヲ得

第三十五條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知
リタルトキハ第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ス可シ

第三十六條 陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行
犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ
逮捕スルコトヲ得

其逮捕シタル者ハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令
官監獄長衛兵司令又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡查ニ之ヲ交付ス可シ
第三十八條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル
トキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條 陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル
トキハ訊問及ヒ檢証ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢証ノ處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢証ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ

被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官

監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

第四十四條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシコトヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ証憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違警罪ト認ムルトキハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ交付ス可シ

二裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所
在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ海軍軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ主
理ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可
シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

三高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問
第四十六條 陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手
續ヲ爲ス可シ

一其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判
ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認
ムルモノ及ヒ違警罪ノ正式裁判ニ附ス可キモノハ直ニ判決ノ命令ヲ
下ス可シ

二審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ
下付ス可シ

第四十七條 理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ

○第六類○治罪法○陸軍治罪法

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第四十八條 理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ
勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十九條 理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又
ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪証ヲ煙滅シ若
クハ逃走ノ恐レアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪
ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐レアルトキハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十條 勾引狀ハ管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在
ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑
託スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ
執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス
可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當
ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ

就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ理
事陸軍檢察官若クハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處
分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條 理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢
察官及ヒ各控訴院ノ檢察長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキ
ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ
收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條 勾引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ
置カサル地ニ於テハ衛兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ハ受ク可キ被告人營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執
行ヲ求ム可シ

被告人海軍艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ
其執行ヲ求ム可シ

憲兵卒衛兵勾引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃
匿シタリト認メタルトキハ其地ノ戶長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜

索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇
アラズ若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコト
ヲ得

第五十七條 理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ス
コトヲ得
若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判
事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十八條 理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事
由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披ス
ルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本
條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得
証人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ
證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタ
ルトキハ理事其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得
證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ
囑託スルコトヲ得

第六十條 左ニ記載シタル者ハ証人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲
メ其陳述ヲ聽クコトヲ得
一 被害者

二 被害者及ヒ被告人ノ親屬

三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者

四 被害者及ヒ被告人ノ雇人

五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ証憑充分ナラサルニ因
リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者

六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所

ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲
メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セラレタル者

七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

八 十六歲未滿ノ者

九 智覺精神ノ不充分ナル者

十 瘡啞者

第六十一條 理事被告人証人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物
件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ

録取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ
理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ
署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ
其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若シハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會
ナシシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人
ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ
其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコ
トヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ
爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間
ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ
之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ証人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコ
キコトヲ宣誓セシム可シ
理事ハ証人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ

署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ
宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十四條 理事ハ証人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命
シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セシテ呼出ニ應セサルトキハ二
圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更
ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト
能ハサルコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ証人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
第六十五條 理事ハ証人鑑定人宣誓ヲ肯セス若シハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ
肯セサルトキハ証人ハ普通刑法第百八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七
十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

証人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公証人神官僧侶其身
分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セ
サルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第六十六條 理事ハ通事宣誓ヲ肯セス若シハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルト
キ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ
二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十七條 理事ハ証人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

証人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第六十八條 証人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命ゼラレタル者ニ科シタル罰金ヲ納完セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ理事之ヲ爲ス可シ

第六十九條 理事ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル陸軍檢察官司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十條 理事審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十一條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後証憑物件ヲ添へ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十二條 理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營内居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十三條 理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若

クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添へ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十四條 陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認メタルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第七十五條 軍法會議ハ判士長判士理事錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第七十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第七十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

○第六類○治罪法○陸軍治罪法

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ証憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第七十八條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ証人鑑定人通事ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第七十九條 証人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料
二輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十條 判士長ハ証人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長

其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帯犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトヲキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セズ若クハ其逃走ニ由リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ關席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中關席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明ス可シ
會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

○第六類○治罪法○陸軍治罪法

其判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申スヘシ

第八十六條 判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

一判決ノ理由

二有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ証憑備ラサルコト

四免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五管轄違ノ判決書ニハ其旨

六私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齢住所判決ノ年月日

第八十七條 左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ陸軍大臣ニ具申シ其他ハ長官ニ於テ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一死刑ニ該リタルトキ

二佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條 陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第八十九條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官第八十七條ノ例ニ依ラズ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第九十一條 陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十二條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事録事列席シ

被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

關席裁判ノ宣告ハ被告人關席ノマ、之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキ亦同シ

第九十三條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ依ル

若シ其所在分明ナラサルトキハ陸軍檢察官及ヒ控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ送り逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第九十四條 被告人關席ノマ、宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第七章 再審

第九十五條 陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲ス可シ

第九十六條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ル、モノアルトキ

ハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ
二同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

三公正ノ証書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ
四既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
六公正ノ証書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第九十七條 陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第九十八條 關席裁判ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿

○第六類○治罪法○陸軍治罪法

免除ニ至ルマテ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知リ若クハ捕ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日禁錮ノ刑ニ於テハ三日内ニ非レハ申訴ヲ爲スコトヲ得ス
罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ノ送達アリタル日ヨリ三日内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲スコシ高等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申訴ヲ爲スコシ

理事其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申スコシ關席裁判ニ對スル申訴ナルトキハ直ニ再審ヲ爲サシム可シ

陸軍大臣再審ノ申訴ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ヲ爲サシム可シ

第百條 陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百一條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復權

第百二條 復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復權願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ願人住居ノ地ヲ管轄スル長官ニ出スコシ

- 一 裁判宣告書ノ謄本
- 二 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類
- 三 假出獄及ヒ假リニ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書
- 四 賠償ノ義務ヲ免カレタル證書
- 五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百三條 長官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ之ヲ理事ニ付シ理事更ニ